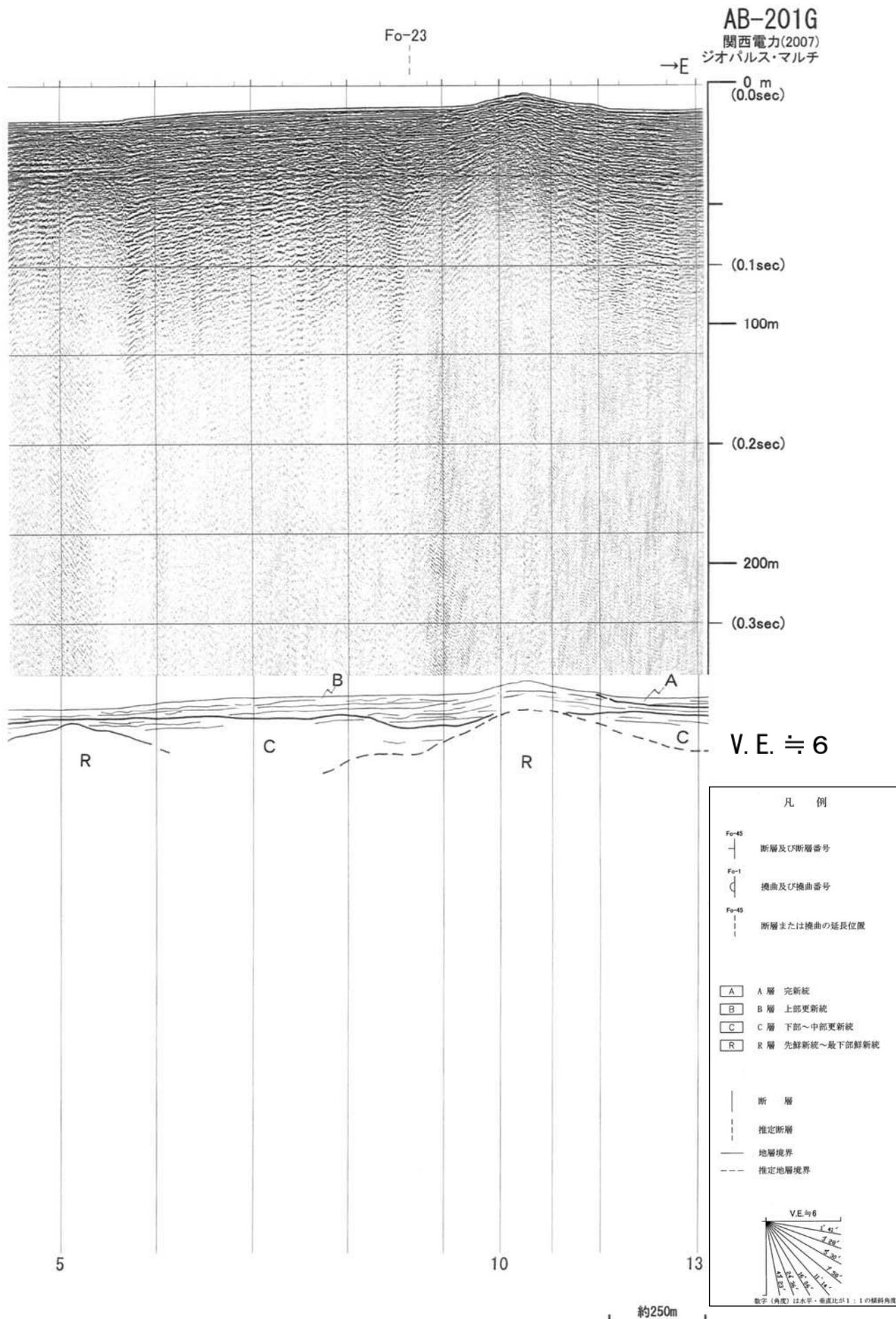
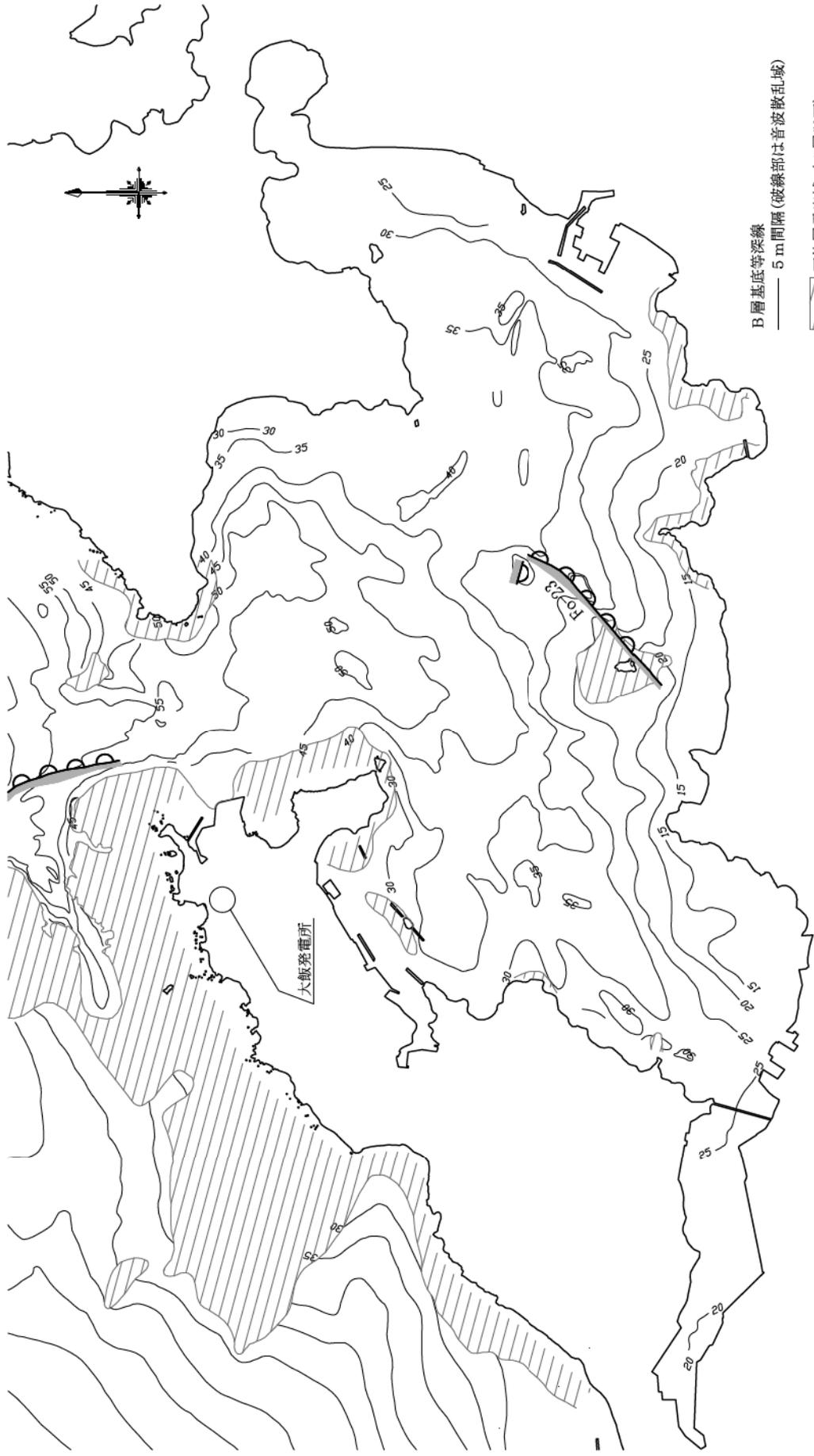


第 3. 2. 162 図(4) FO-C断層の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 A-9G)



第 3. 2. 162 図(5) F O - C断層の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 AB-201G)



B層基底等深線
—— 5 m間隔(破線部は音波散乱域)

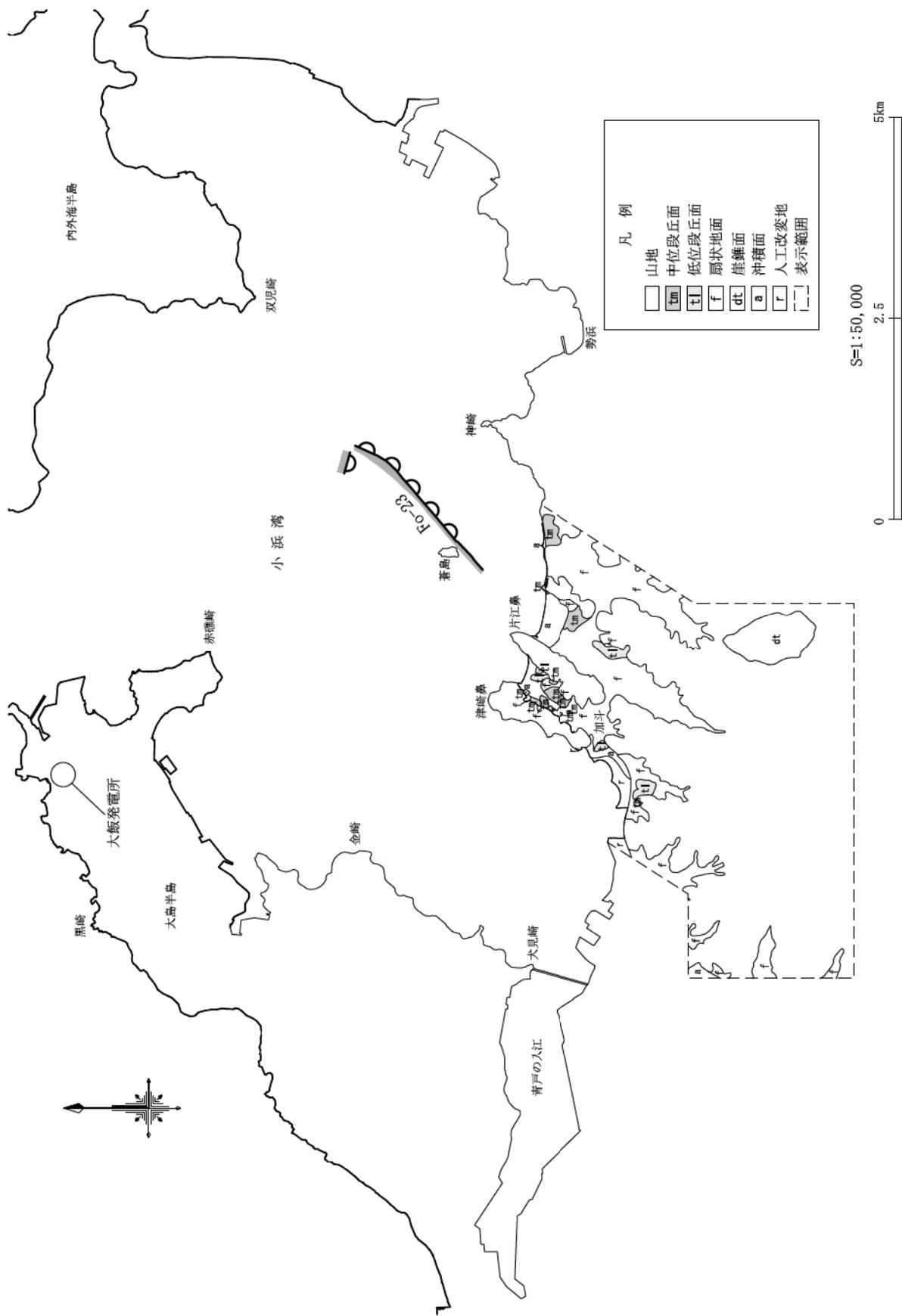
▨ 下位層露出域 (C層以下)

— 後期更新世以降の活動が認められる断層及び撓曲

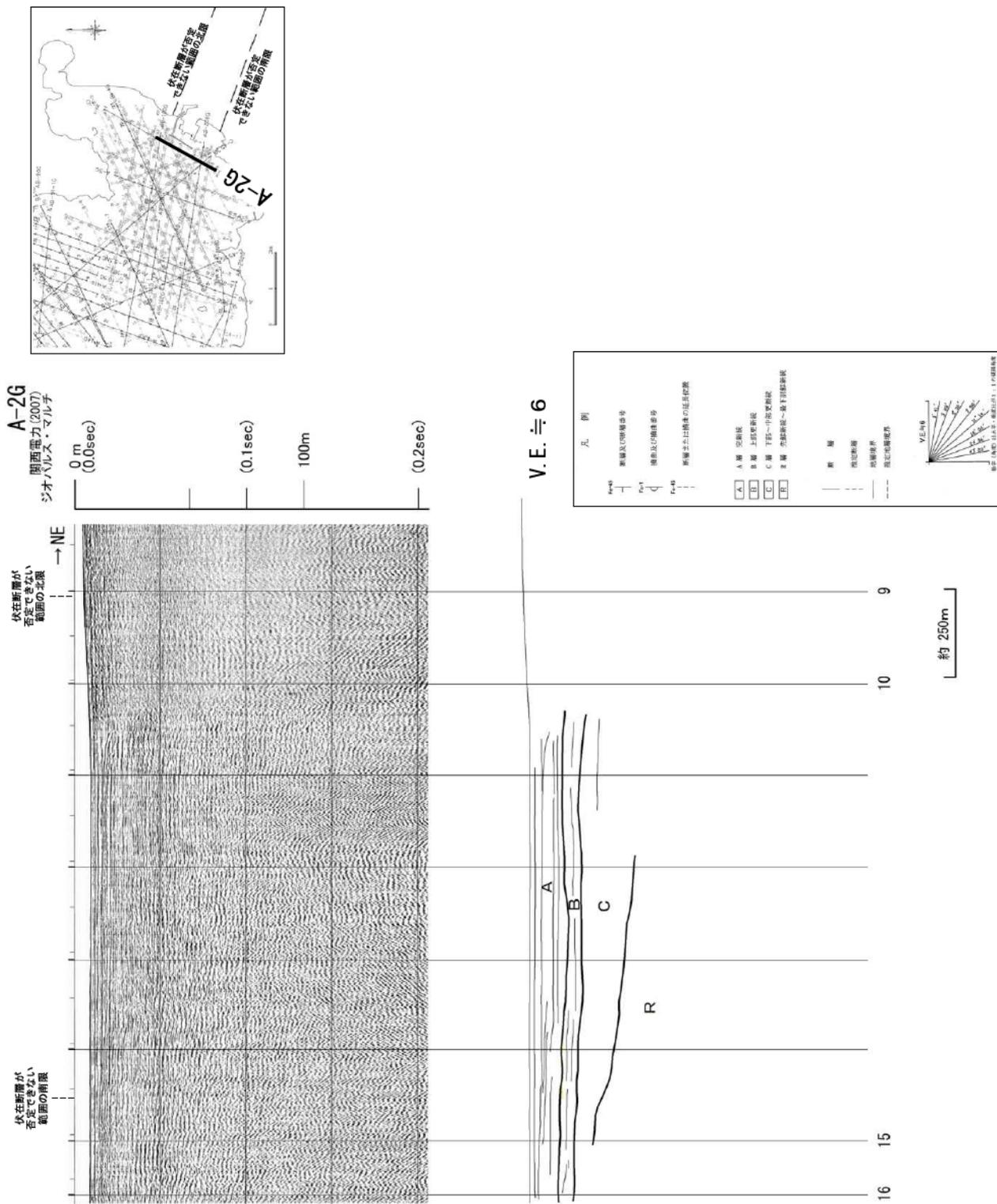
() B層基底面に変形が及んでいる範囲



第3.2.163図 小浜湾内のB層基底等深線図

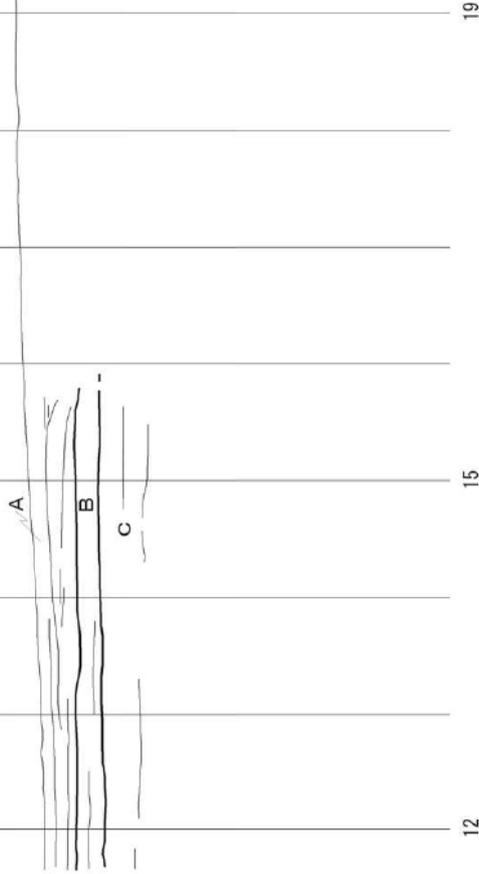
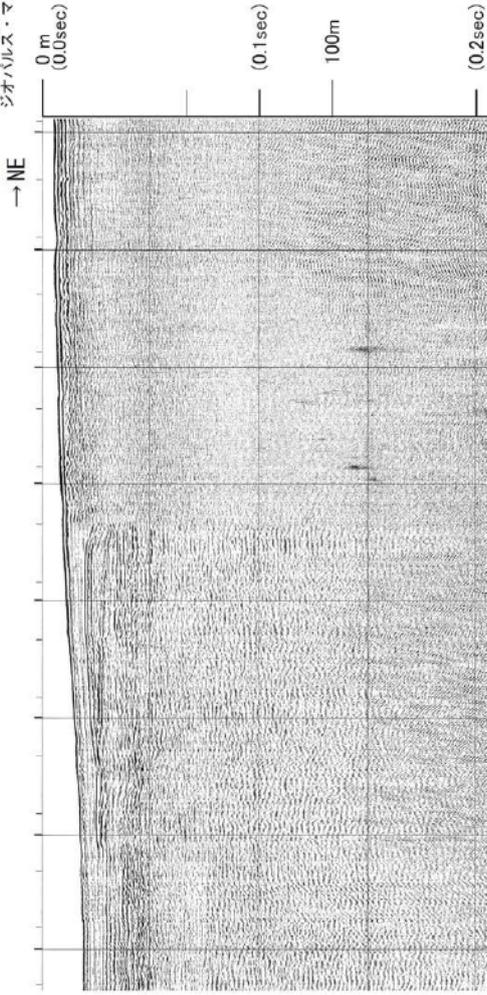
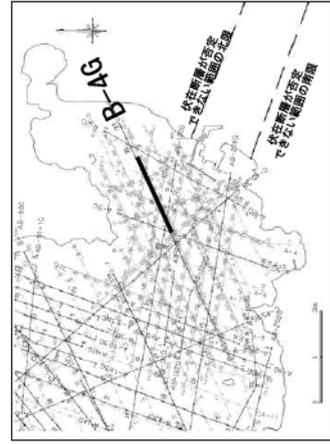


第3.2.164図 F0-C断層延長部陸域周辺の段丘面分布図

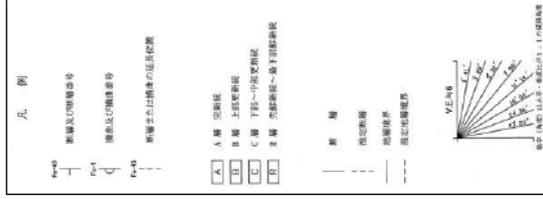


第 3. 2. 165 図 (1) 熊川断層延長海域の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 A-2G)

B-4G
 熊鷹灘(2008)
 ジョハリス・マルチ

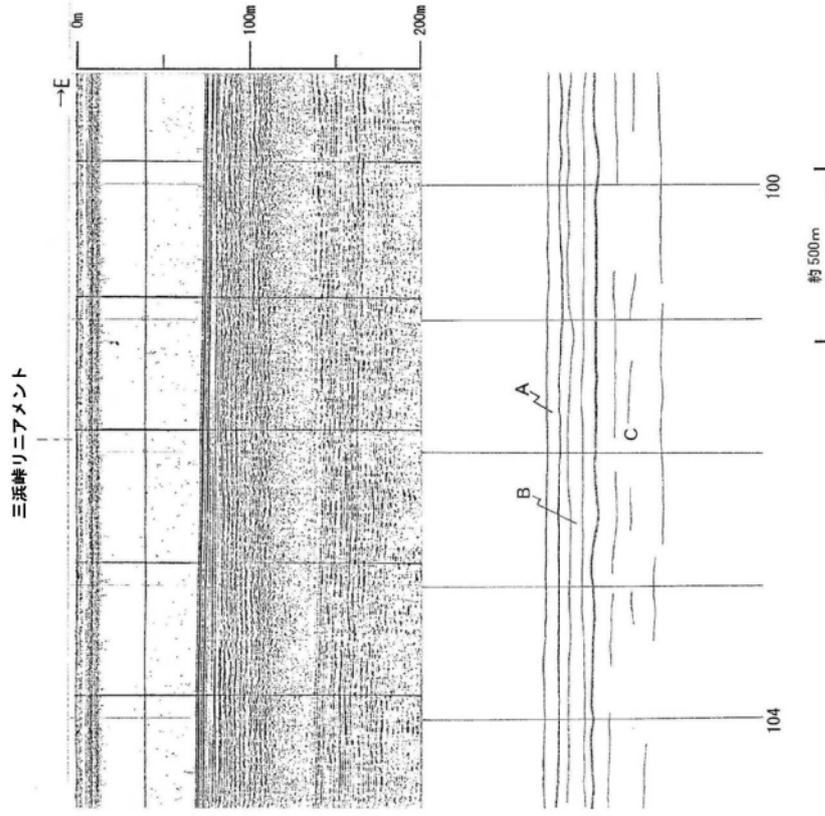


V.E. 6



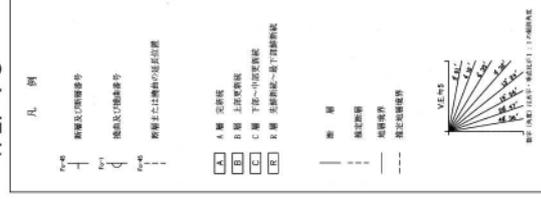
第 3.2.165 図 (2) 熊鷹灘延長海域の海上音波探査記録及び地質断面図 (測線 B-4G)

交A-6
[海保「若狭湾西部」A1-8]

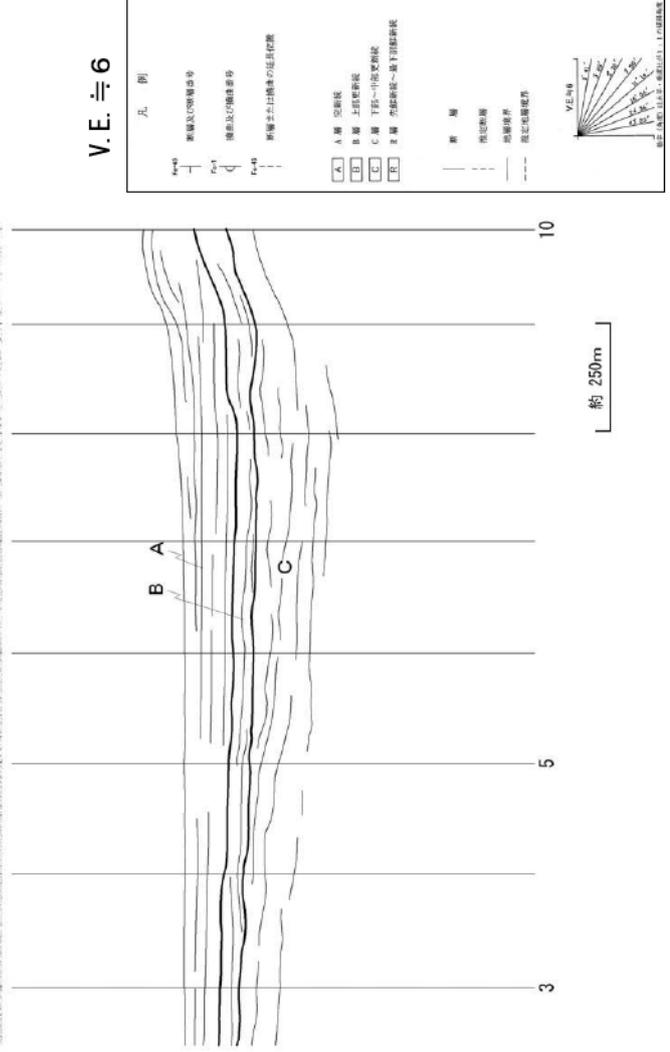
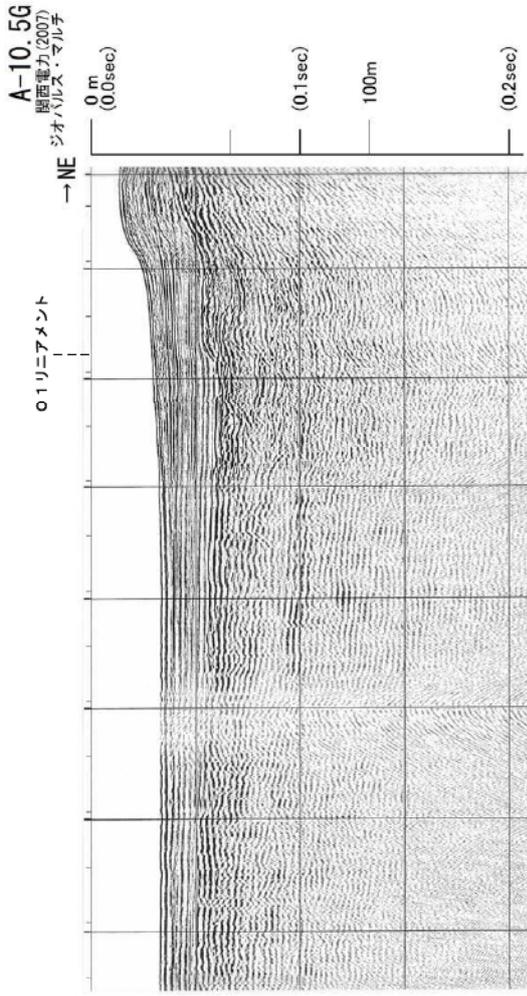
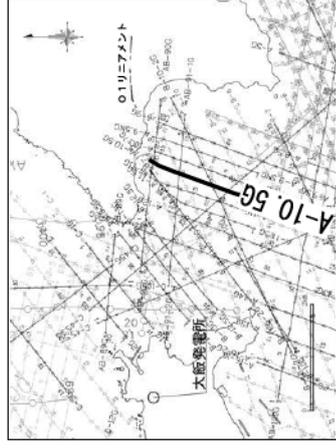


※音波探査記録は、海上保安庁水路部（現海上保安庁海洋情報部）の沿岸の海の基本図「若狭湾西部」の図資料である。
地質断面図は、事業者の解釈によるものである。

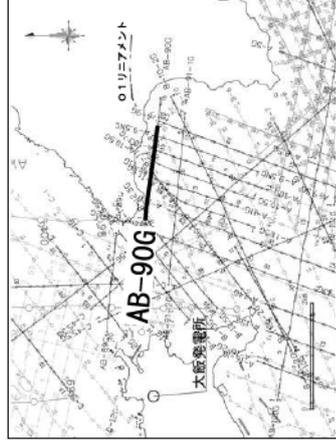
V. E. ≐ 5



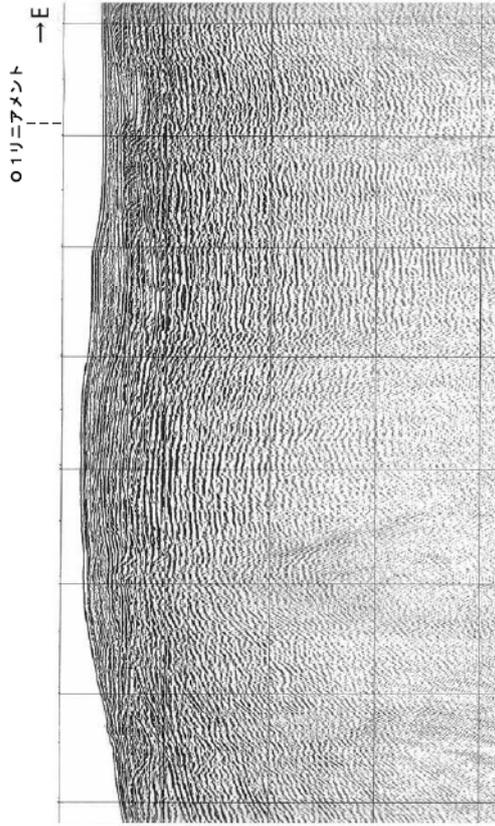
第 3. 2. 167 図 (2) 三浜峠リニアメント北方海域の海上音波探査記録及び地質断面図
(海上保安庁：測線 交 A-6)



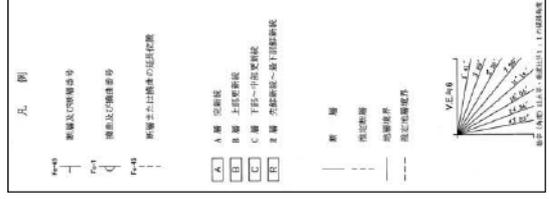
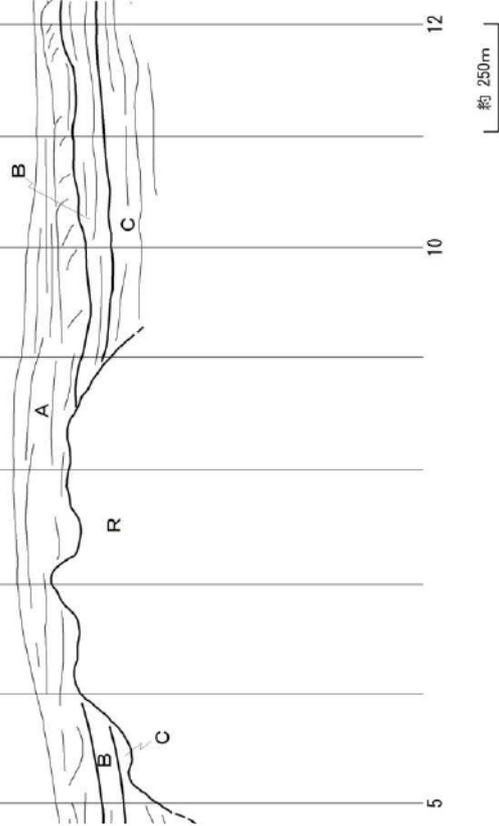
第 3.2.168 図(1) 01リニアメント延長海域の海上音波探査記録及び地質断面図 (測線 A-10.5G)



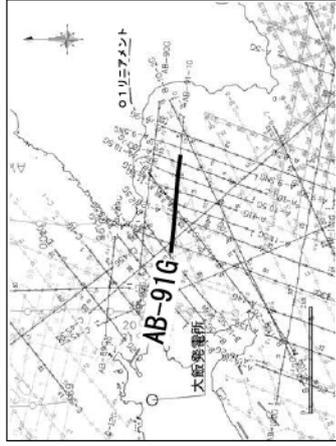
AB-90G
関西電力(2008)
ジオハリス・マルチ



V.E. ≒ 6

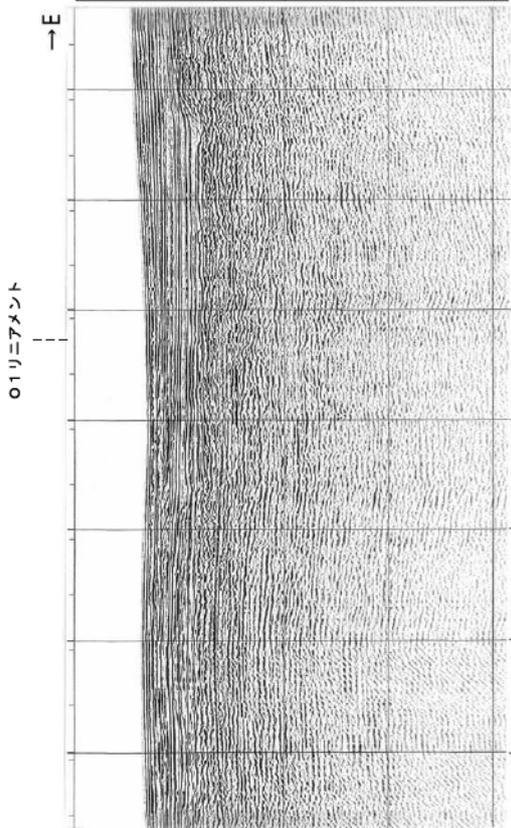


第 3.2.168 図(2) O11リアメント延長海域の海上音波探査記録及び地質断面図 (測線 AB-90G)

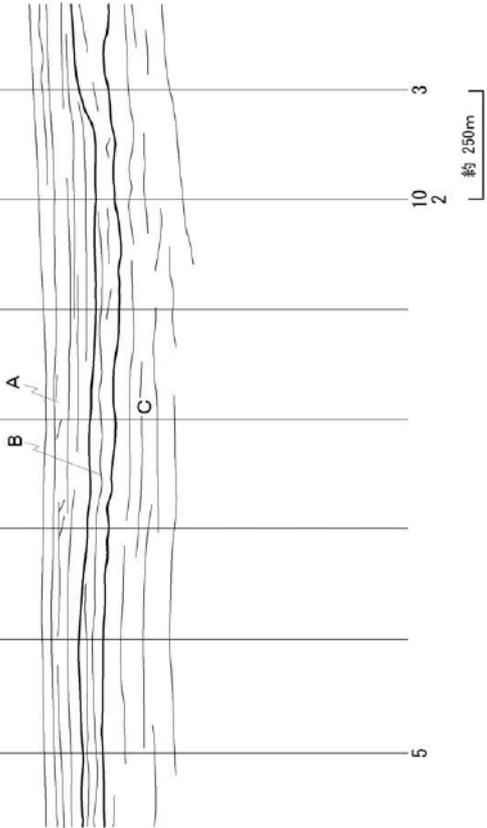
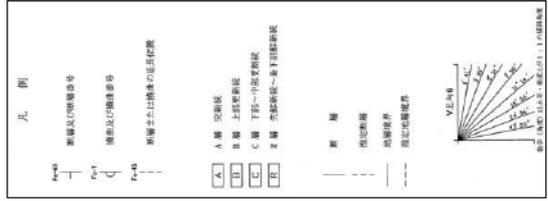


AB-91G

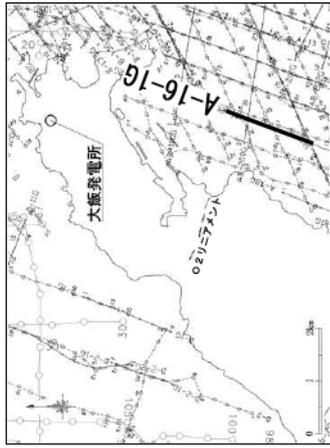
関西電力(2008)
ジオハルス・マル子



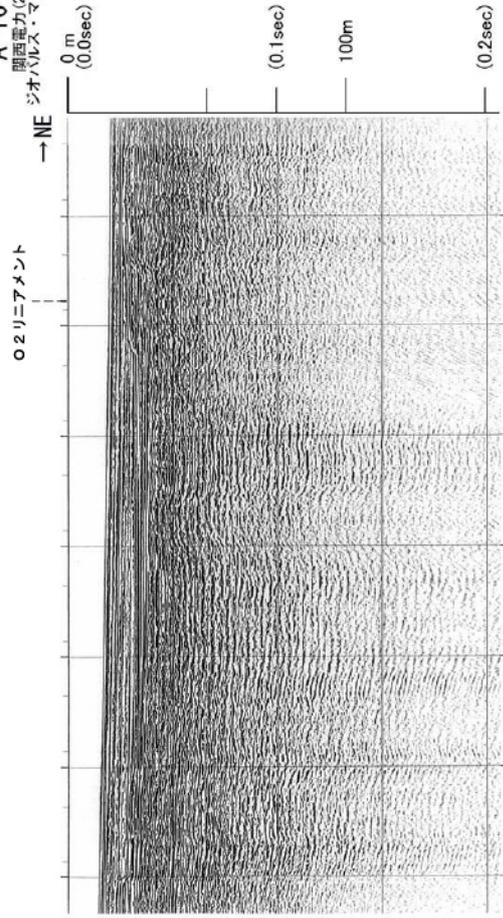
V.E. ≒ 6



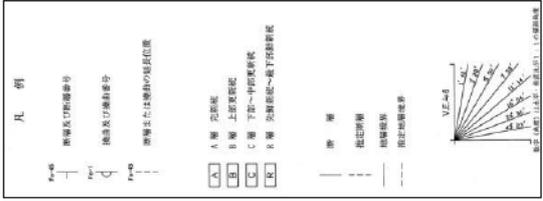
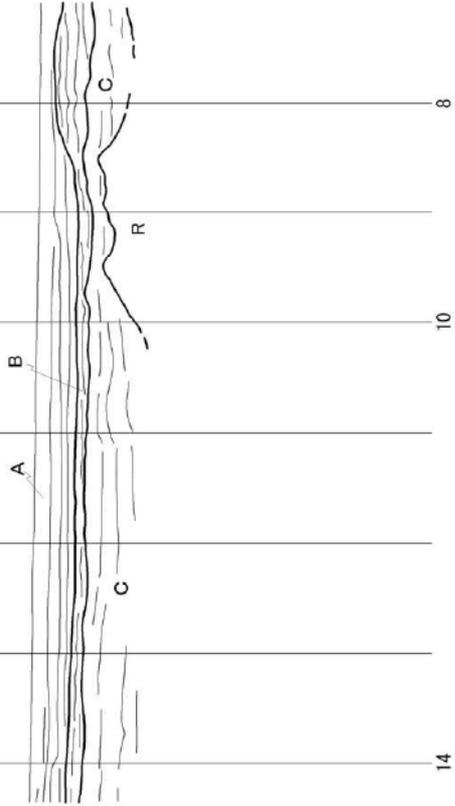
第 3.2.168 図(3) O1リニアメント延長海域の海上音波探査記録及び地質断面図 (測線 AB-91G) 6-3-458



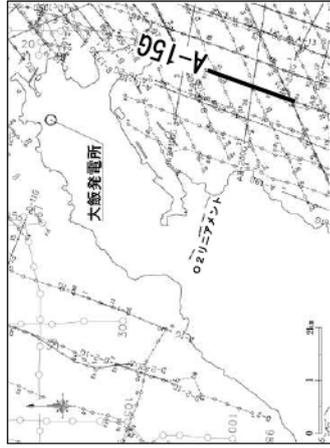
A-16-1G
調査番号(2007)
シオハリス・マルチ



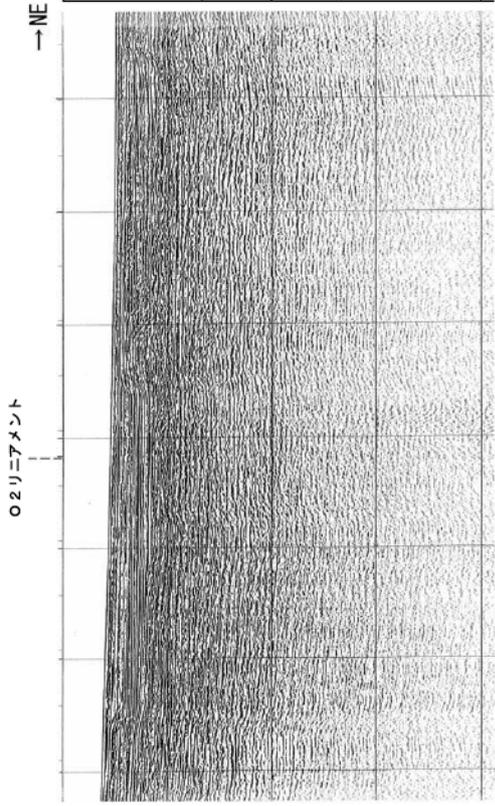
V. E. ≒ 6



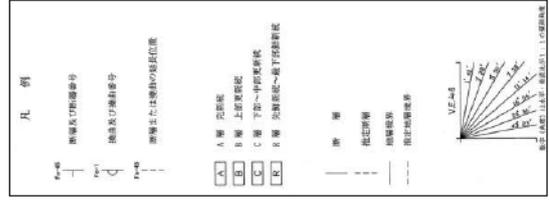
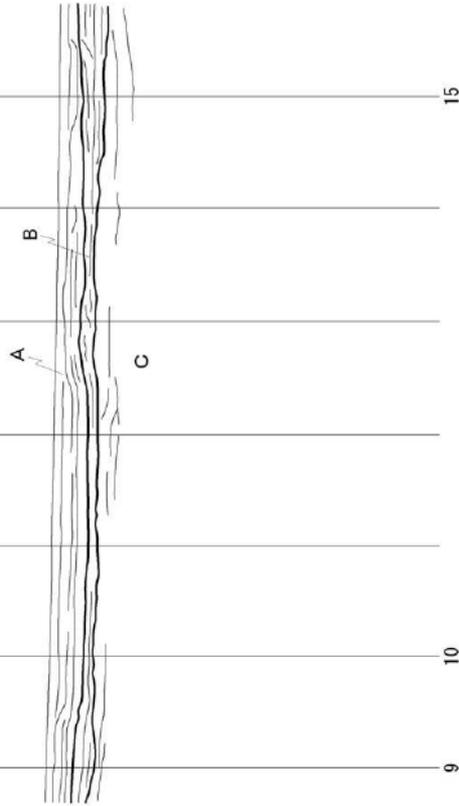
第 3.2.169 図(1) O2リニアメント延長海域の海上音波探査記録及び地質断面図 (測線 A-16-1G)



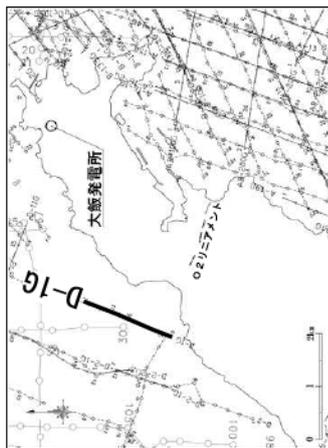
A-15G
開削電力(2007)
ジオハルズ・マルチ



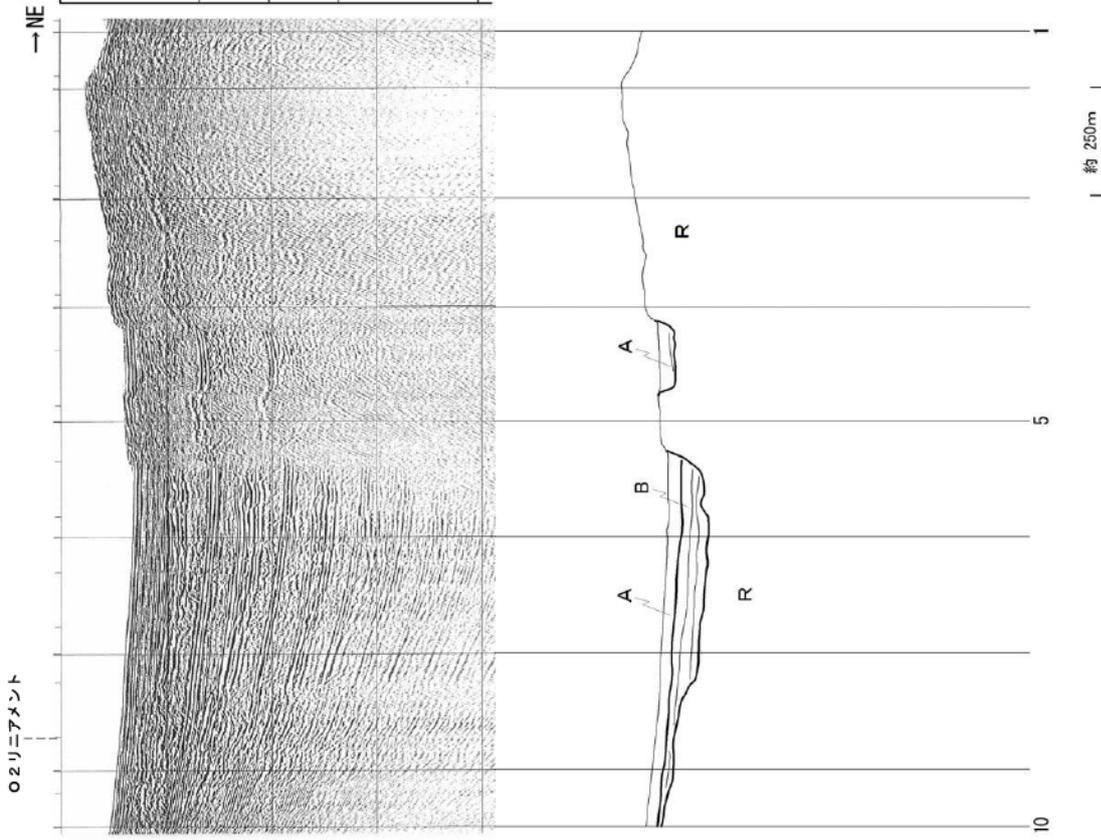
V.E. ≒ 6



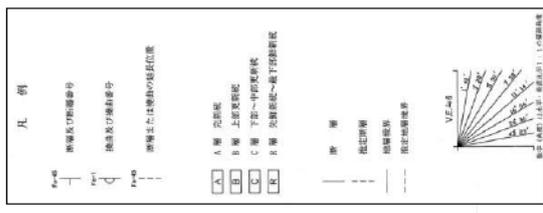
第 3.2.169 図(2) O2リニアメント延長海域の海上音波探査記録及び地質断面図 (測線 A-15G)



D-1G
型西電力(2007)
ジオハリス・マルチ



V. E. ≒ 6



第 3.2.169 図(3) O2Ri-Niament延長海域の海上音波探査記録及び地質断面図 (測線 D-1G)

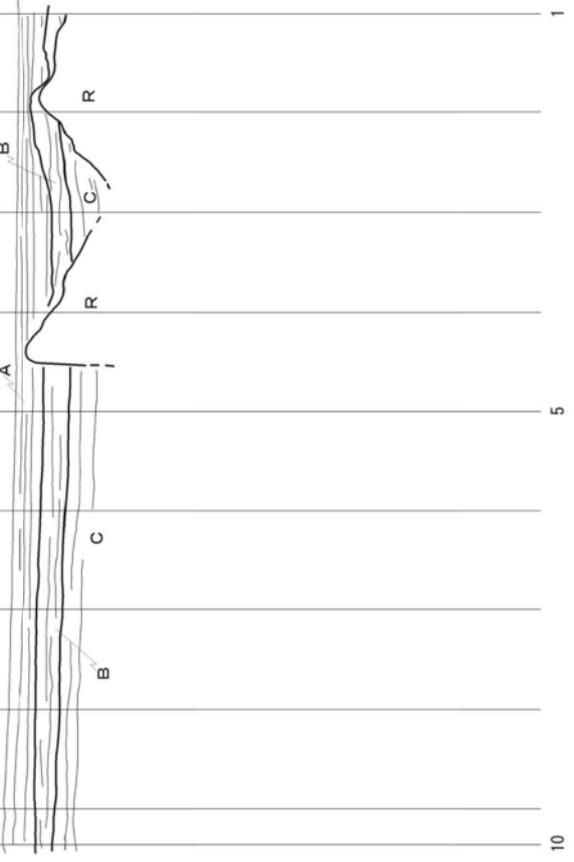
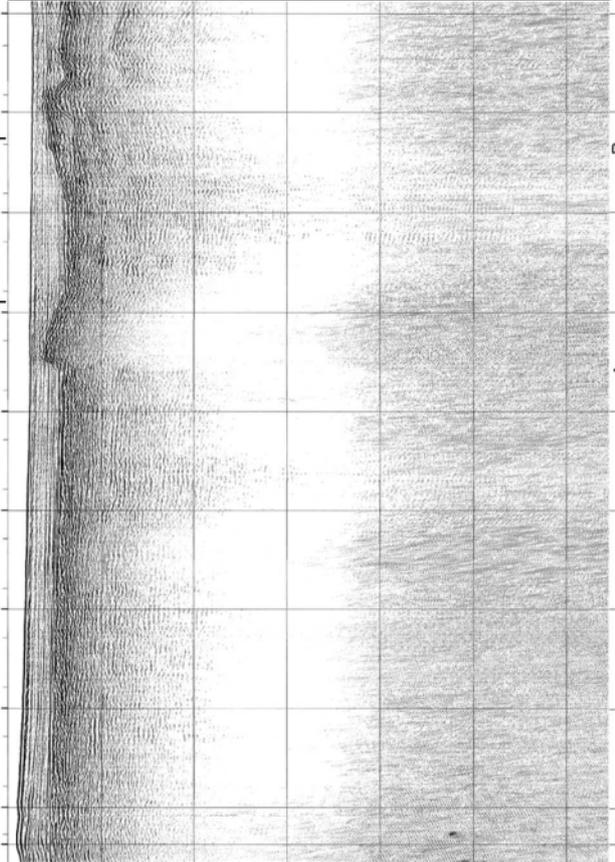
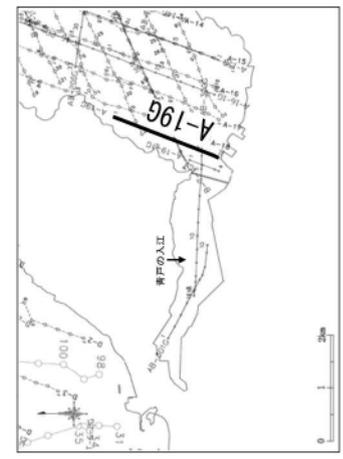
A-196
関西電力(2008)
ジオハリス・マルテ

青戸の入江←

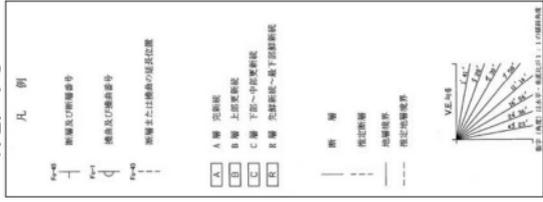
03リニアメント 03リニアメント(北) → NE

0 100m 200m

0.0sec 0.1sec 0.2sec 0.3sec



V.E. ≒ 6

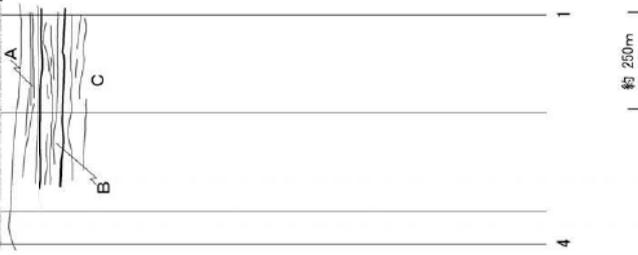
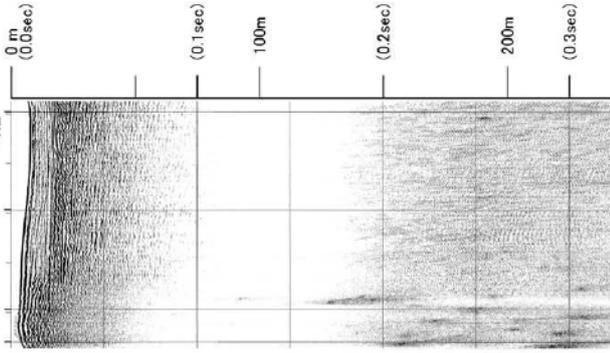


第 3.2.170 図(1) 青戸の入江 海上音波探査記録及び地質断面図(測線 A-196)

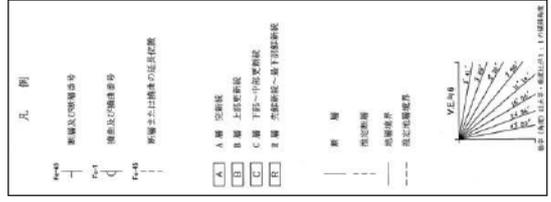
A-19-1G
 関西電力(2008)
 ジオバルス・マルテ

青戸の入江 ←

→ NE



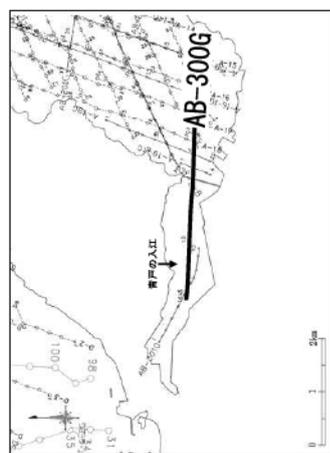
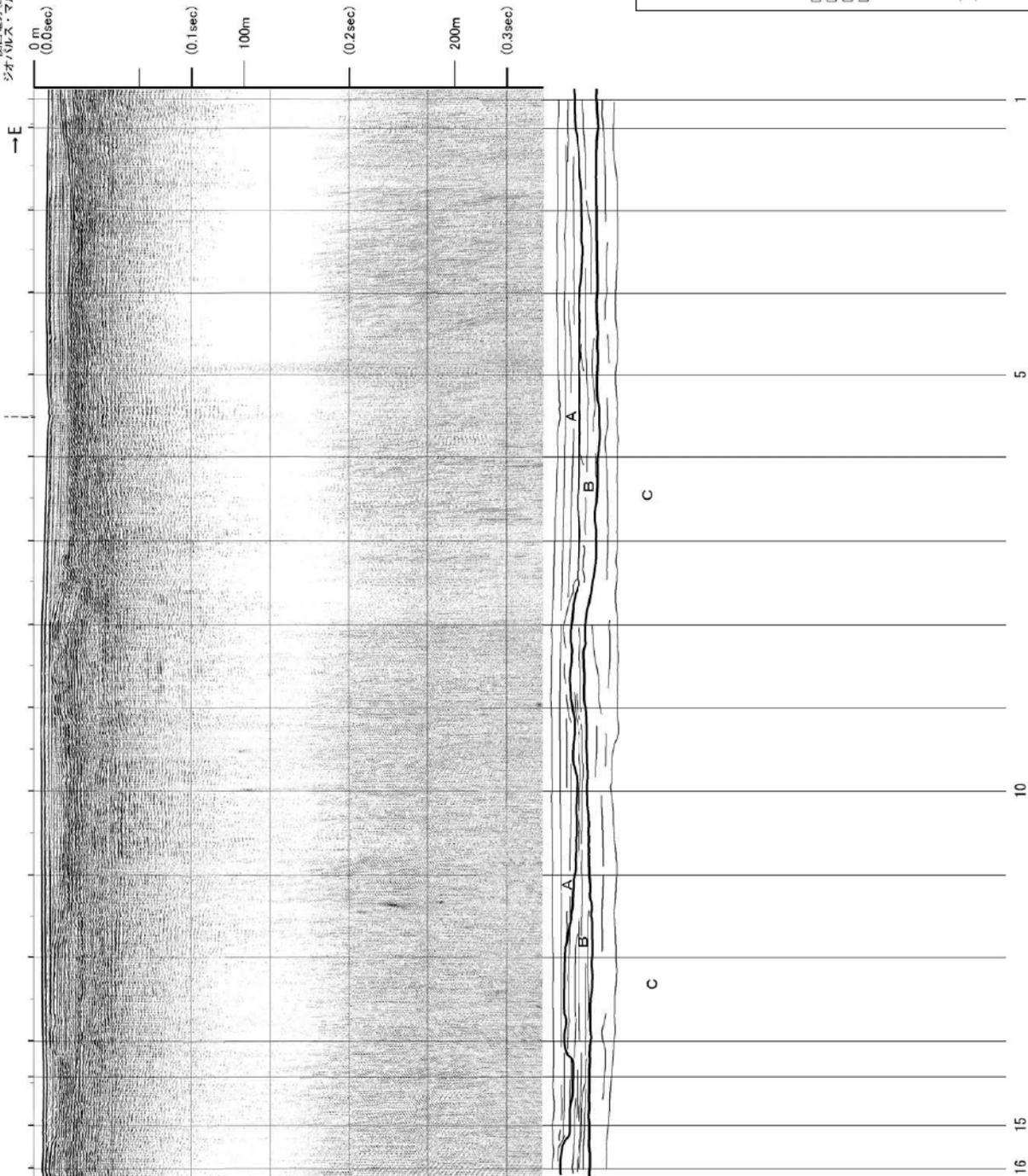
V.E. ≙ 6



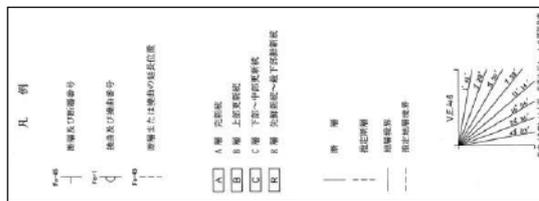
第 3.2.170 図 (2) 青戸の入江 海上音波探査記録及び地質断面図 (測線 A-19-1G)

AB-300G
 探時電力 70000
 ショールバス・マル子

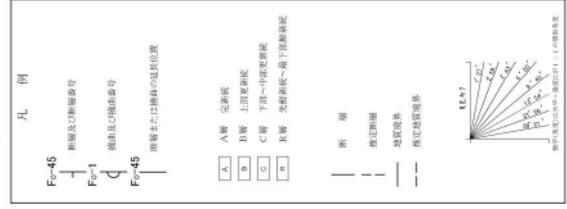
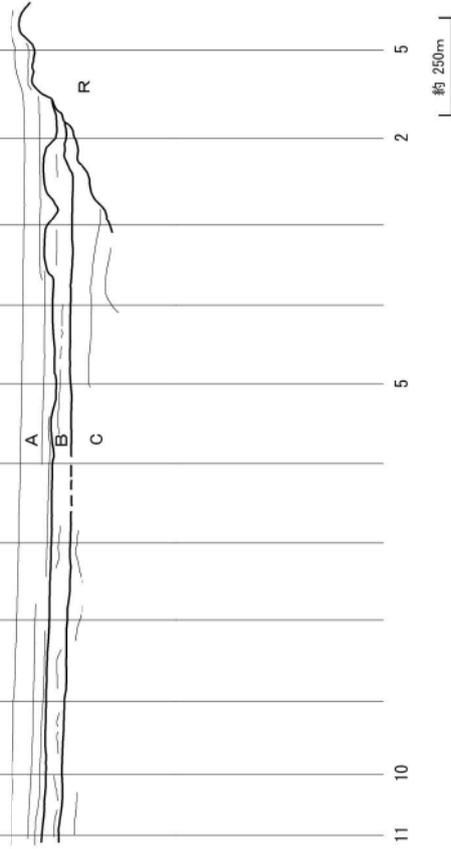
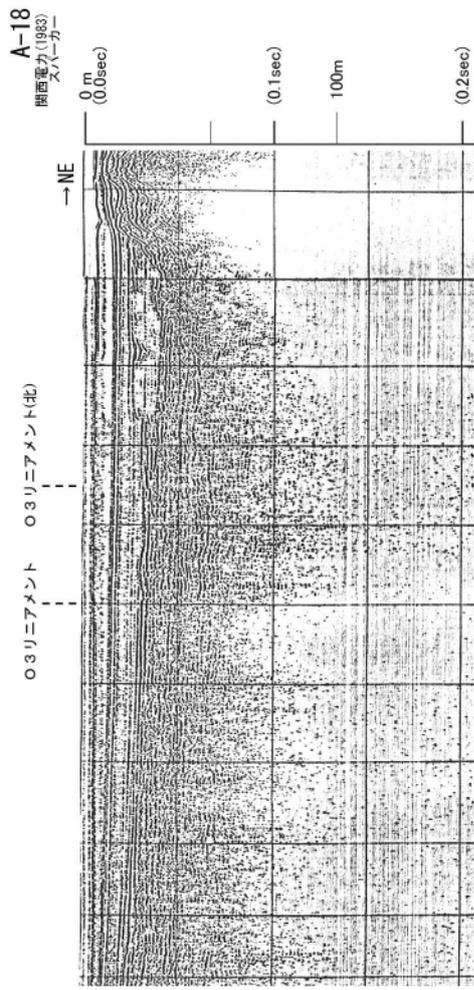
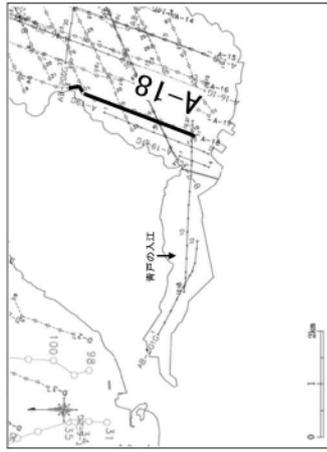
青戸大橋



V.E. ≒ 6

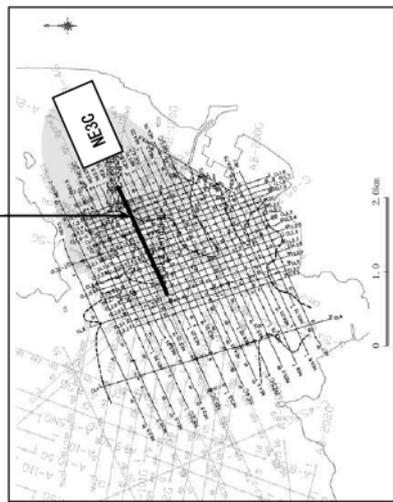


第 3.2.170 図(3) 青戸の入り 海上音波探査記録及び地質断面図 (測線 AB-300G)



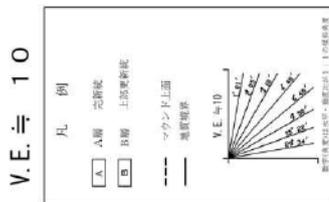
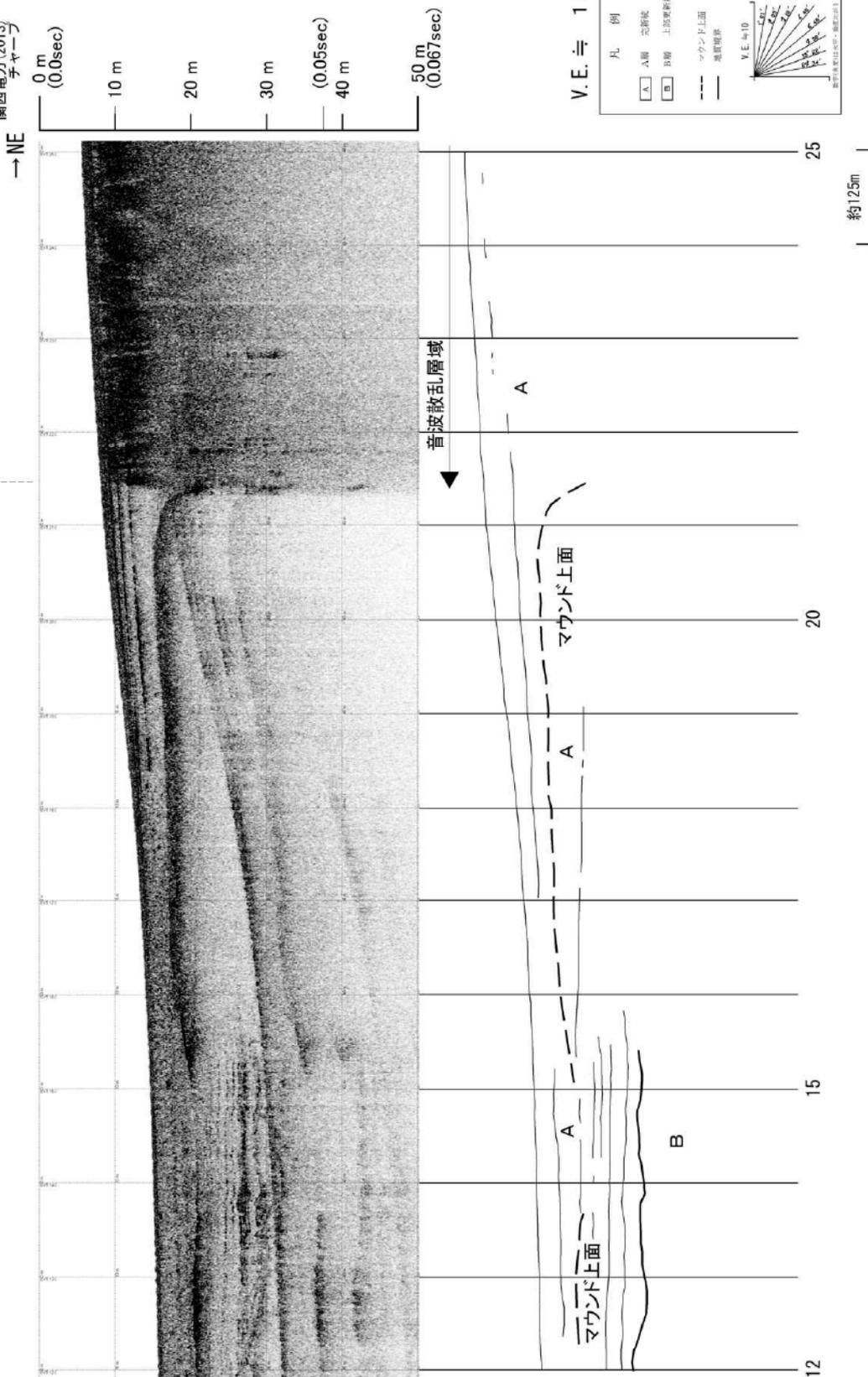
第 3.2.171 図 0.3リニアメント (北) 延長海域の海上音波探査記録 (測線 A-18)

保安院調査による
変形構造確認箇所

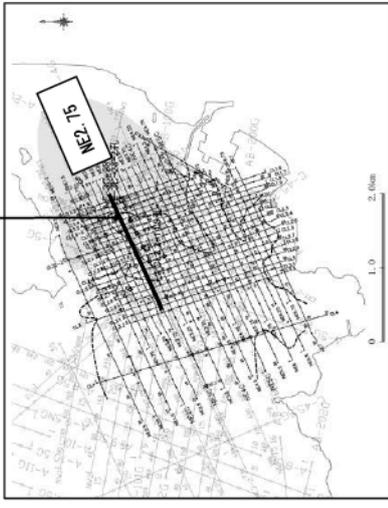


NE3C
関西電力(2013)
チャート

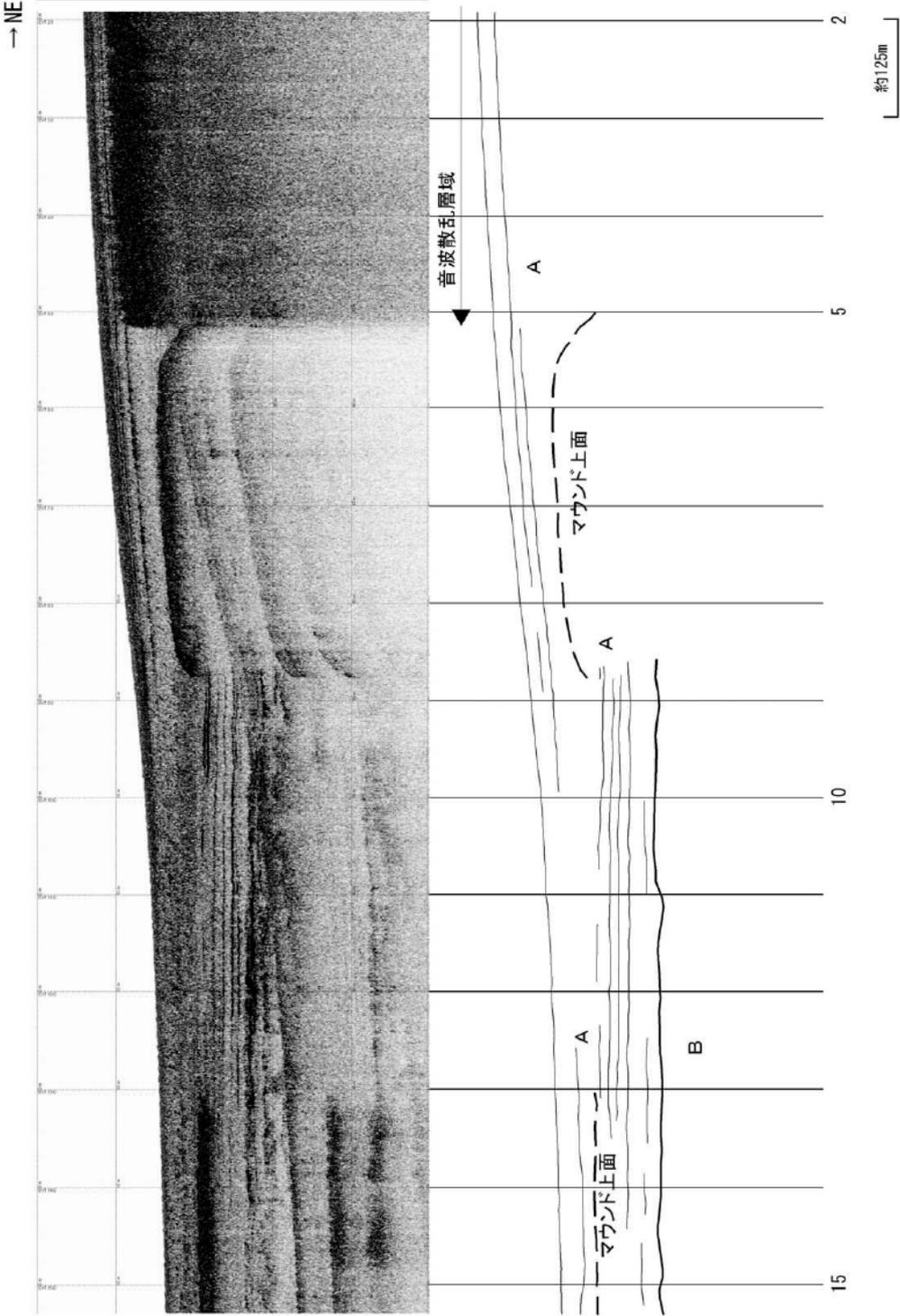
保安院調査による
変形構造確認箇所



第 3.2.172 図 (1) 保安院調査による変形構造確認箇所付近の海上音波探査記録及び地質断面図 (測線 NE3C)



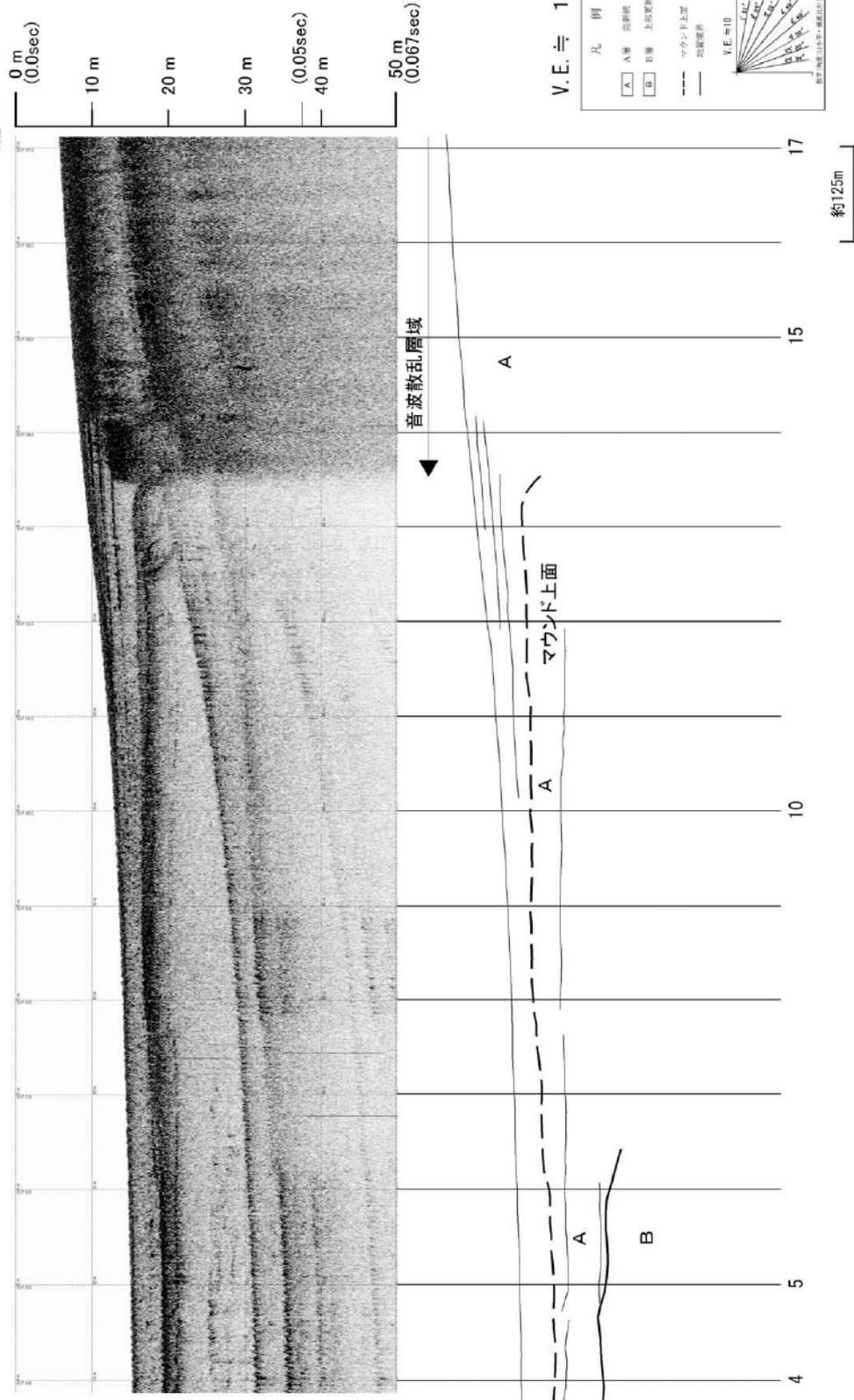
NE2.75
関西電力(2013)
チャート



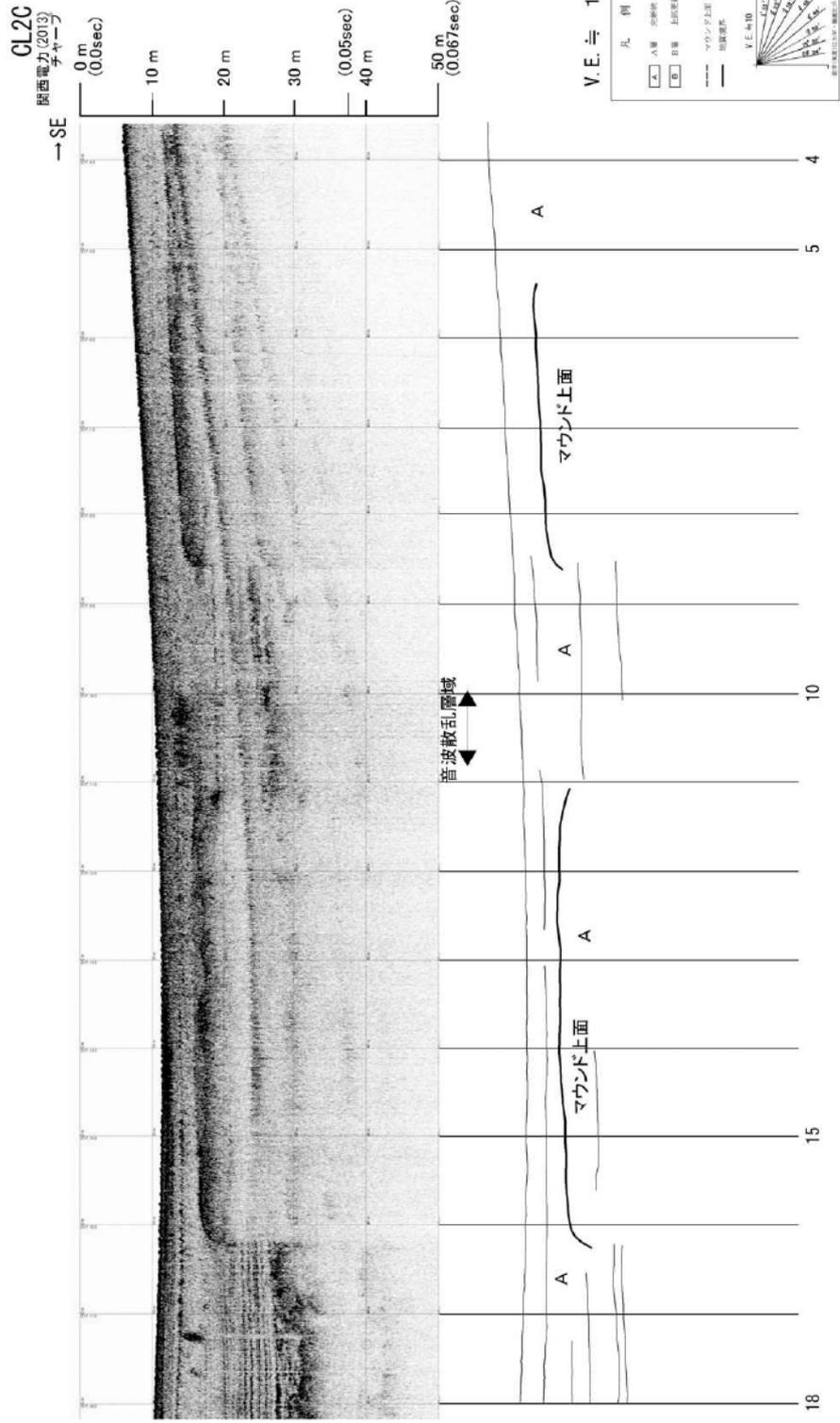
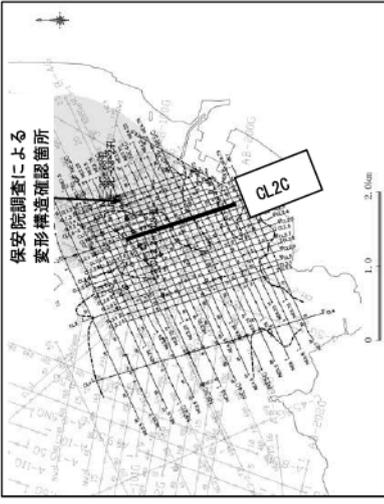
第3.2.172図(2) 保安院調査による変形構造確認箇所付近の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 NE2.75)



NE3.25
関西電力(2013)
チャープ

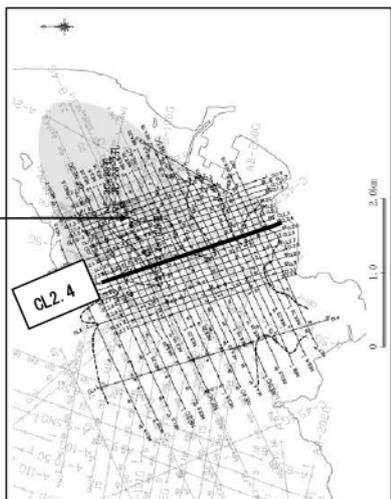


第 3.2.172 図(3) 保安院調査による変形構造確認箇所付近の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 NE3.25)



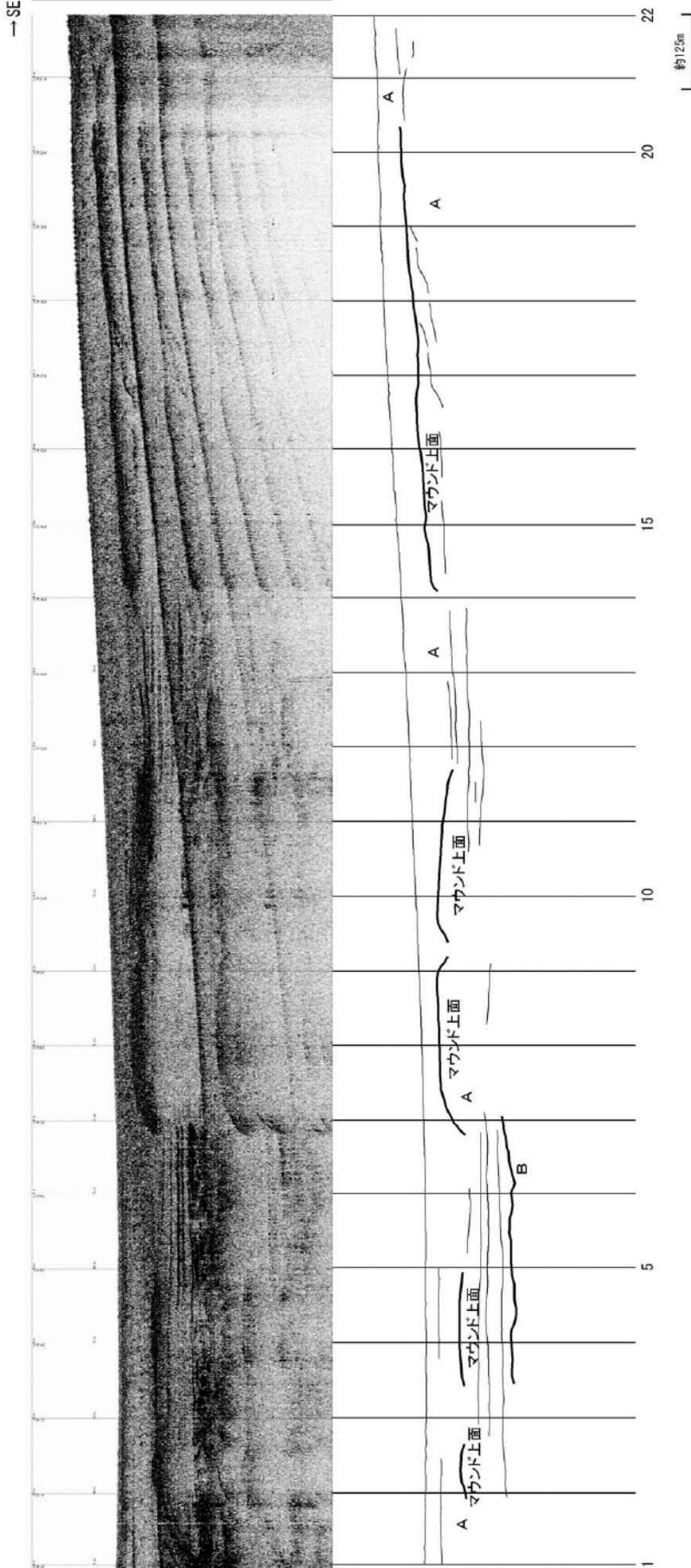
第 3.2.172 図 (4) 保安院調査による変形構造確認箇所付近の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 CL2C)

保安院調査による
変形構造確認箇所

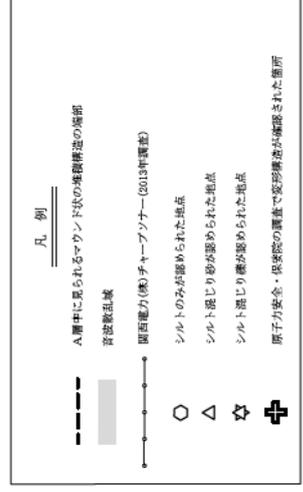
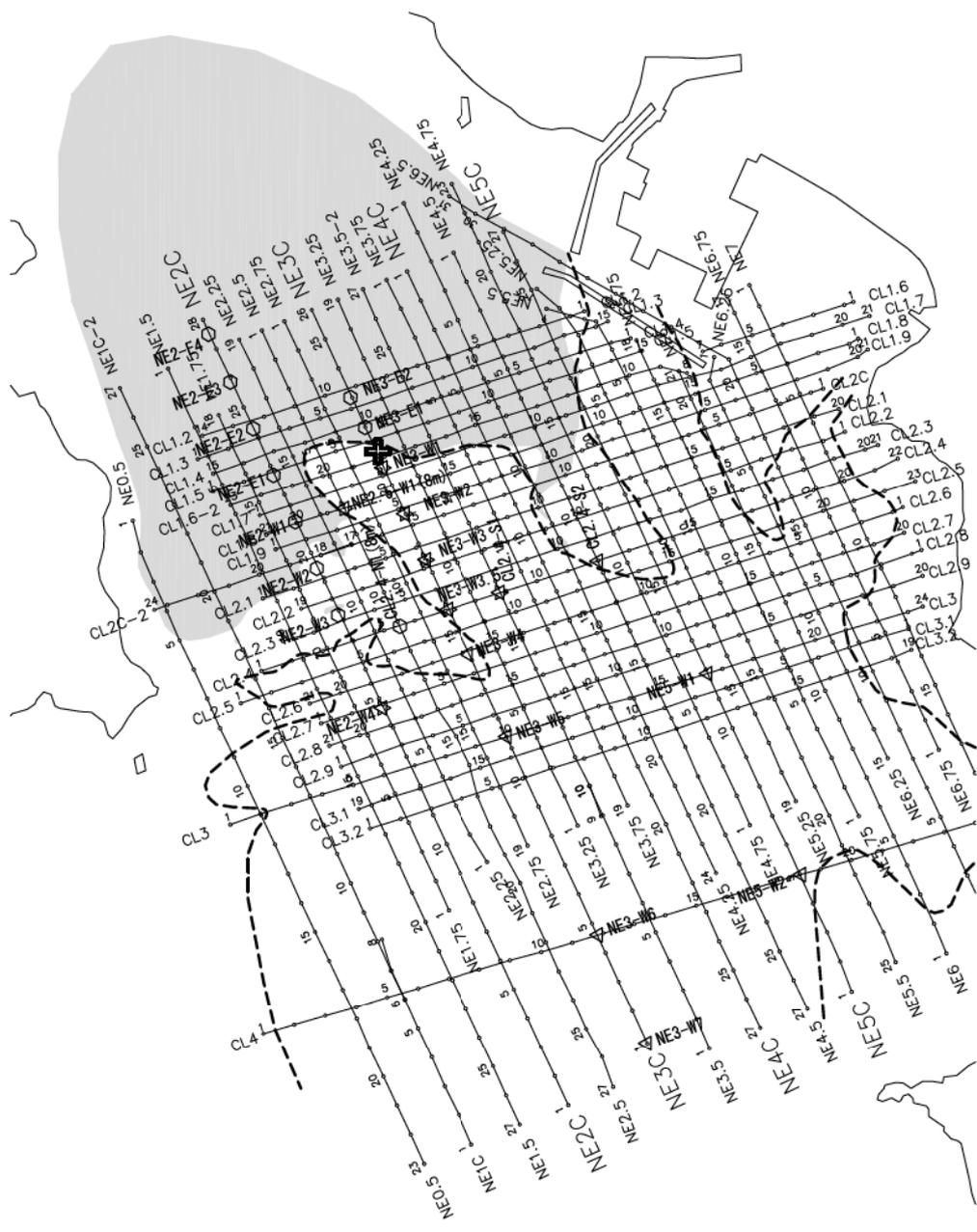
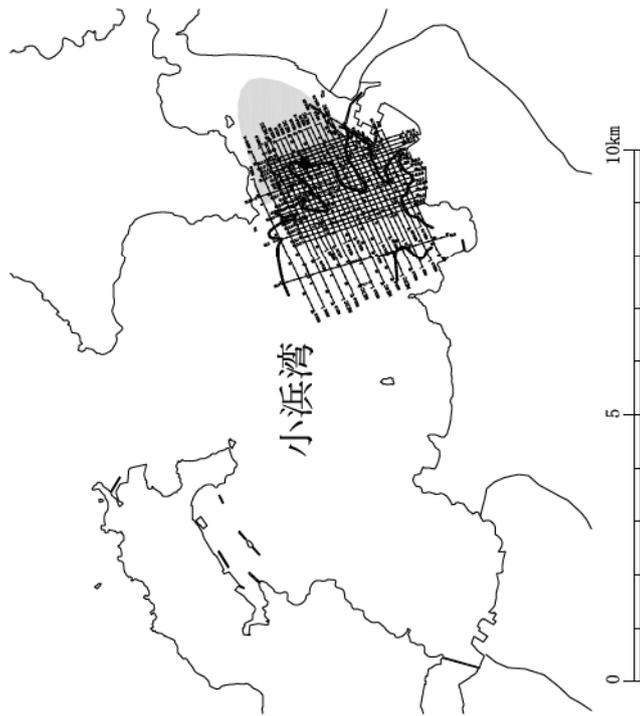


CL2.4

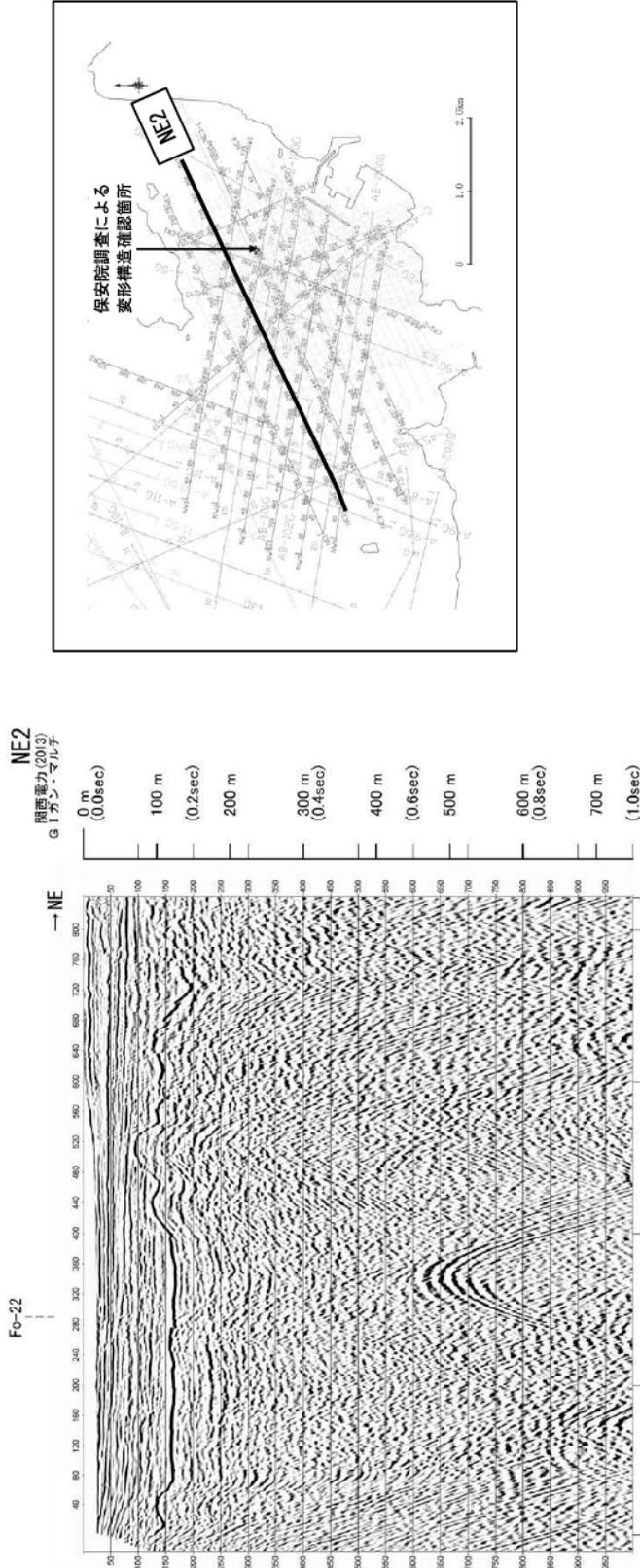
関西電力(2013)
チャート



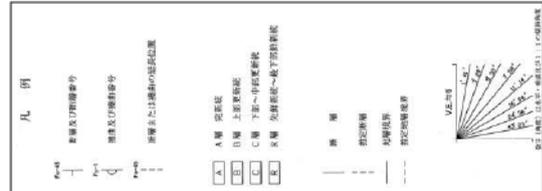
第 3.2.172 図(5) 保安院調査による変形構造確認箇所付近の海上音波探査記録及び地質断面区(測線 CL2.4)



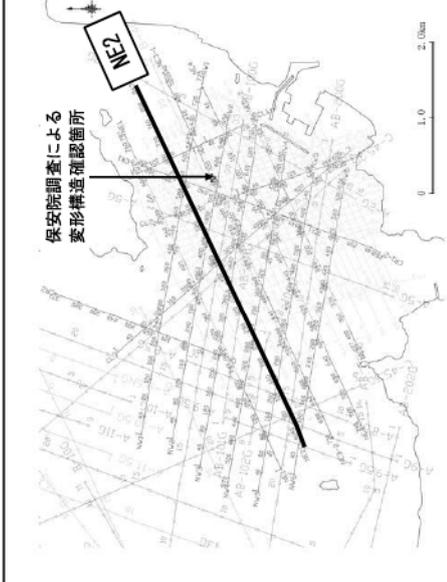
第3.2.173図 保安院調査による変形構造確認箇所付近における柱状採泥結果



V. E. ≐ 6



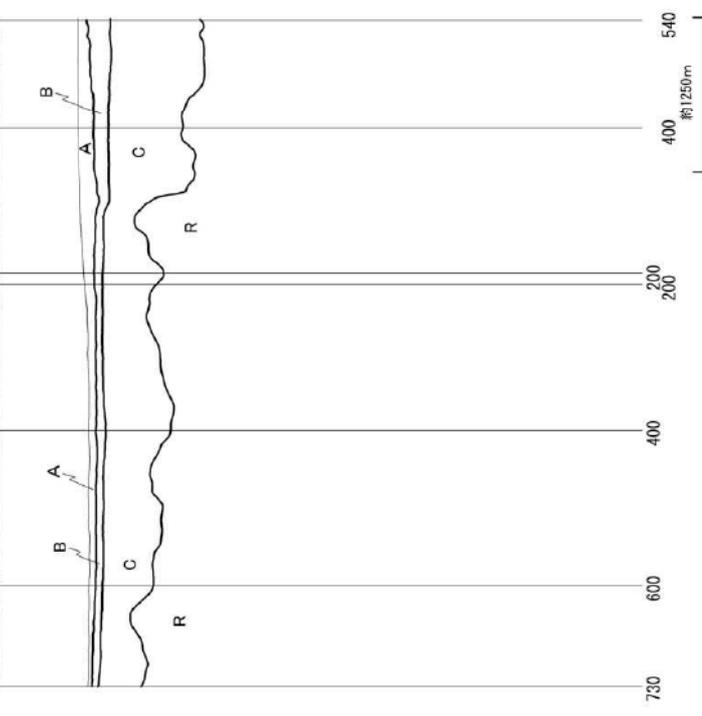
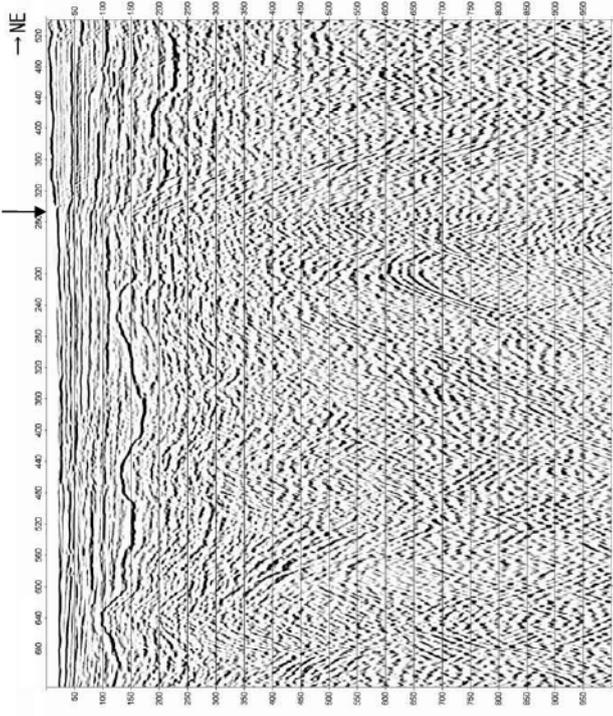
NE2
関西電力(2013)
G1方シ・マルチ



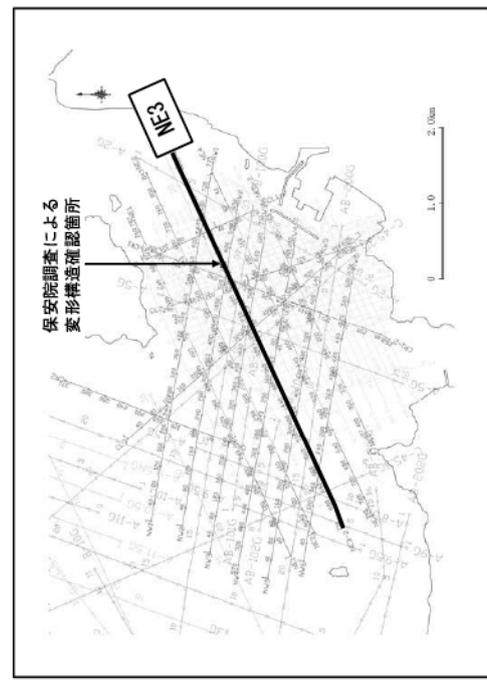
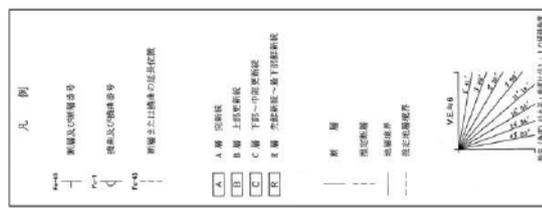
第 3. 2. 174 図 (1) 保安院調査による変形構造確認箇所付近の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 NE2) 6-3-474

保安院調査による
変形構造確認箇所

NE3
関西電力(2013)
G1ガン・マル子



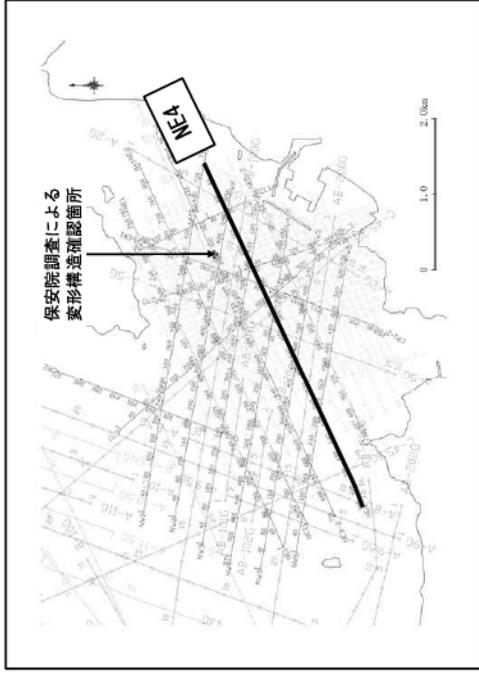
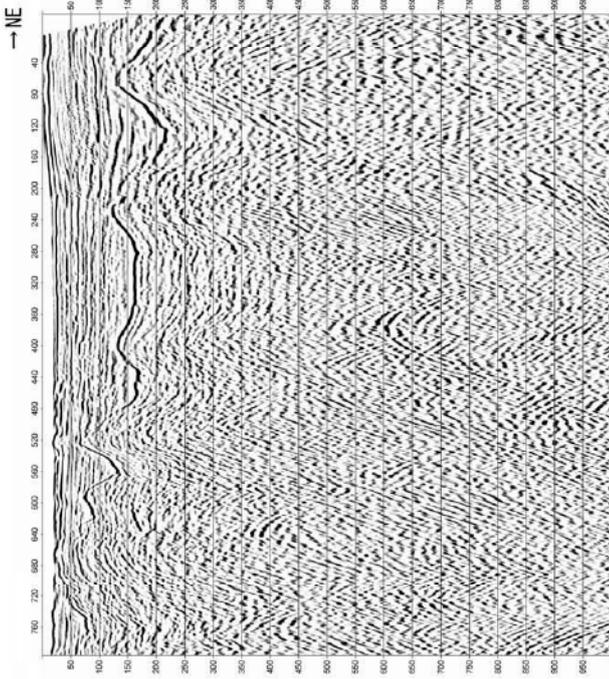
V.E. # 6



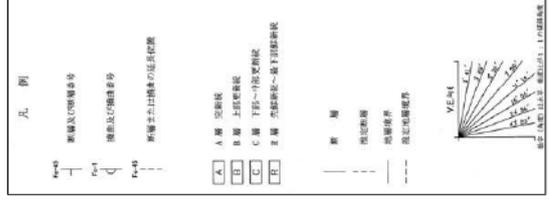
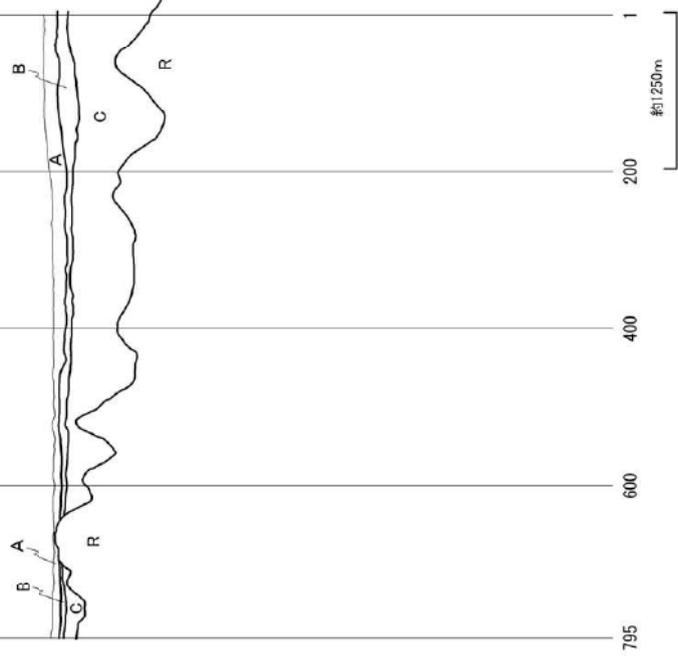
第 3.2.174 図(2)

保安院調査による変形構造確認箇所付近の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 NE3)

NE4
調査番号(01)
G1ガン・マルチ



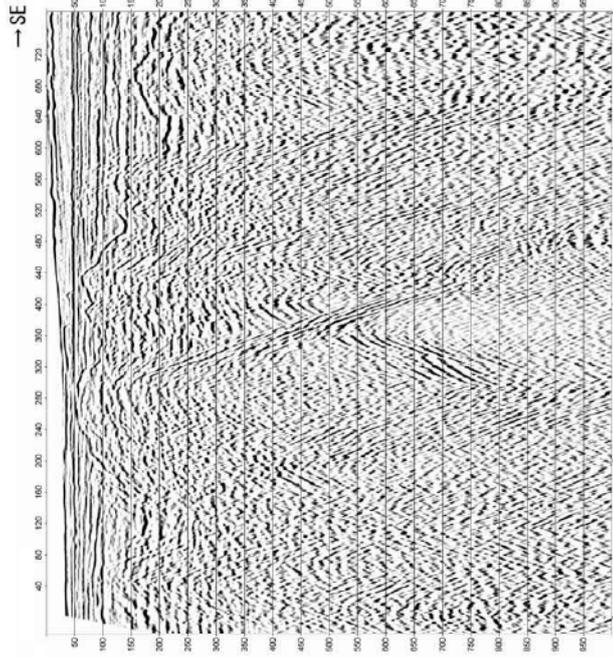
V.E. ≒ 6



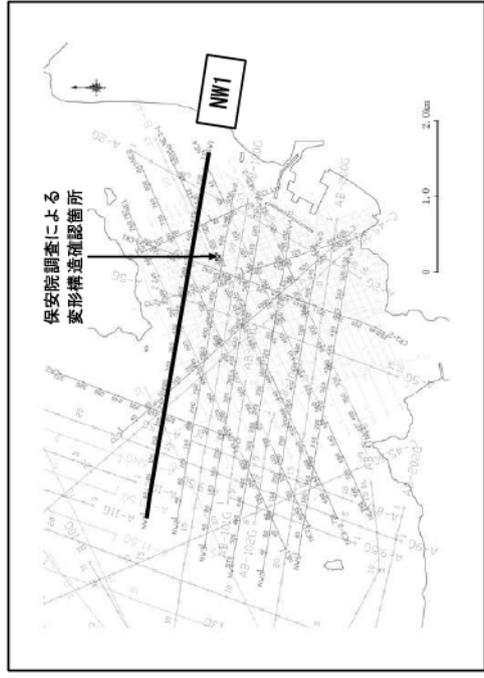
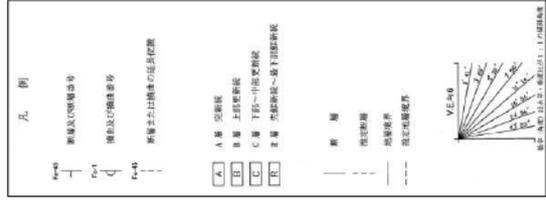
第 3.2.174 図(3)

保安院調査による変形構造確認箇所付近の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 NE4)

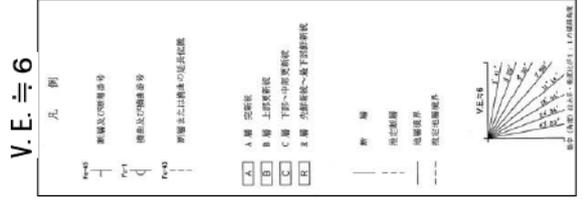
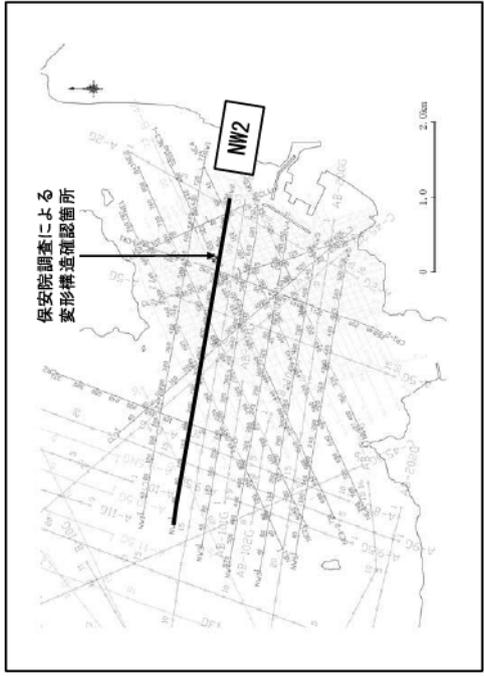
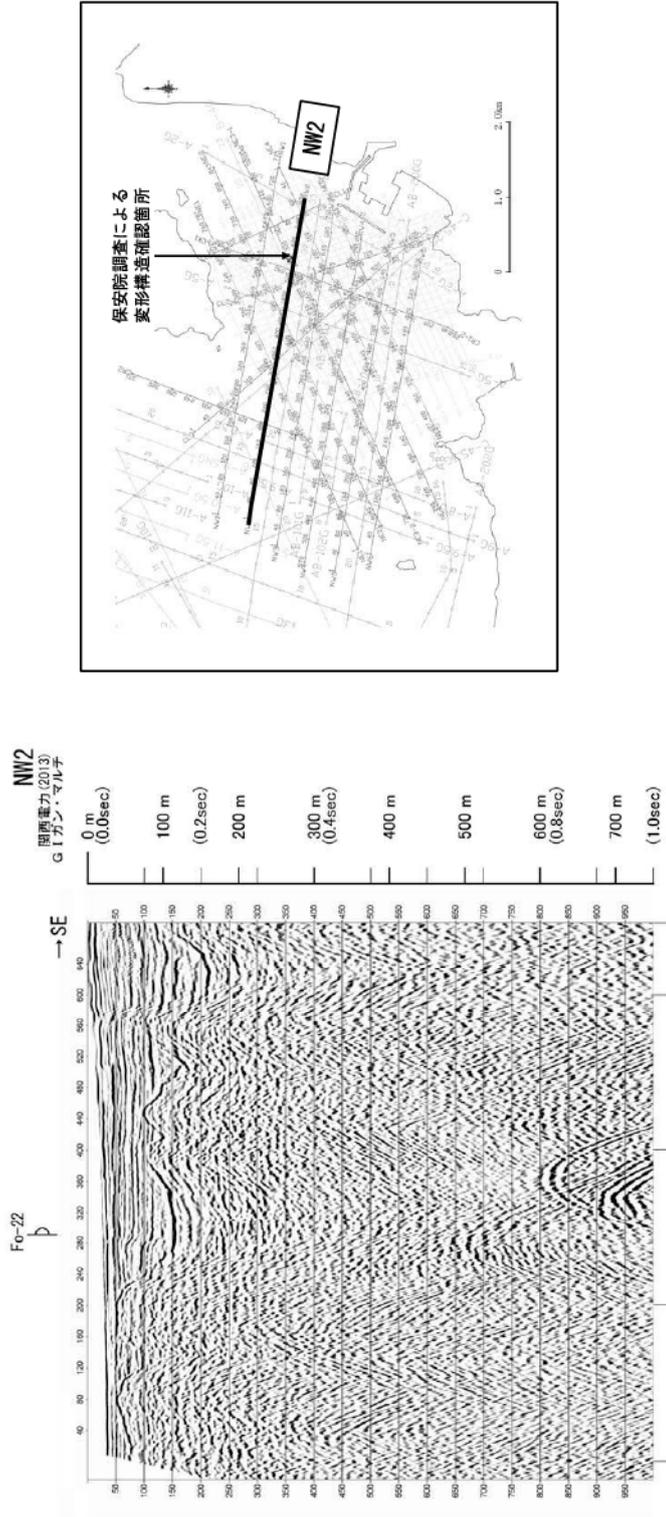
NW1
開削電力(2013)
G1ガン・マルチ



V.E. ≡ 6



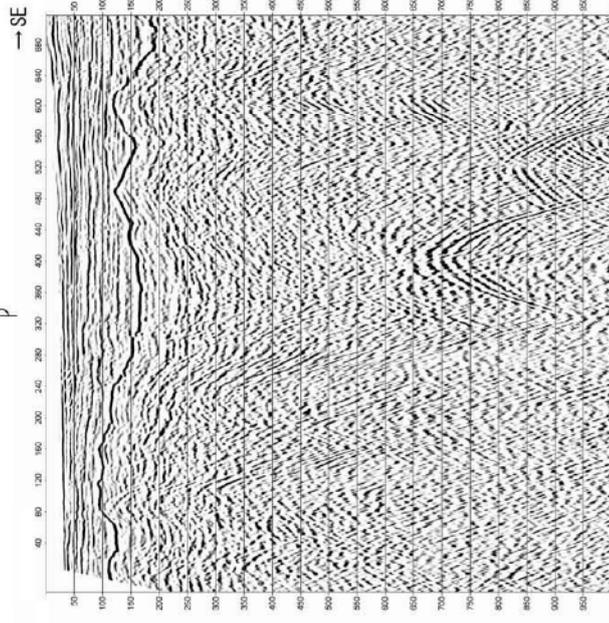
第 3.2.174 図(4) 保安院調査による変形構造確認箇所付近の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 NW1) 6-3-477



保安院調査による変形構造確認箇所付近の海上音波探査記録及び地質断面図(測線NW2)
 第 3.2.174 図(5)

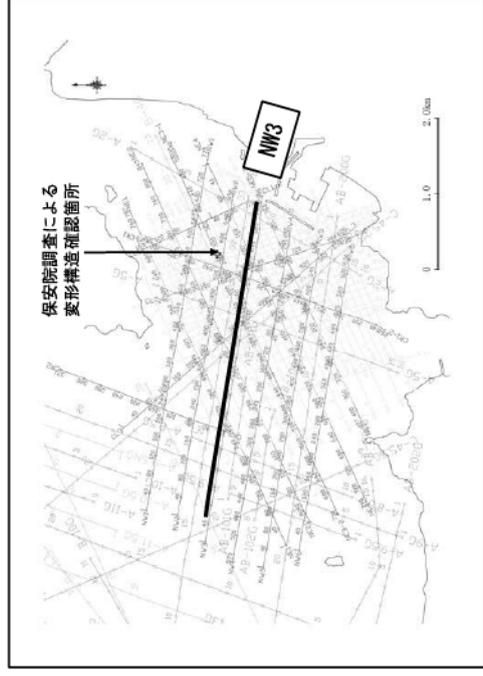
Fo-22

b

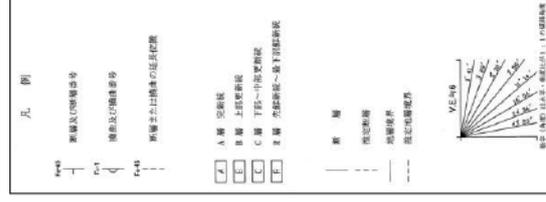


NW3

関西電力(2013)
G1ファン・マルチ



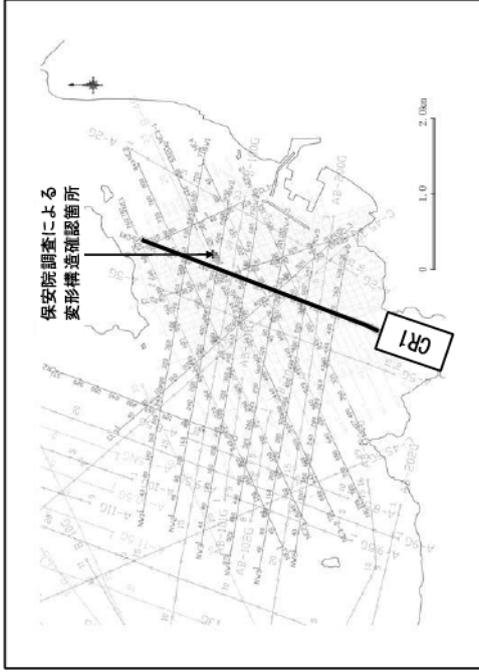
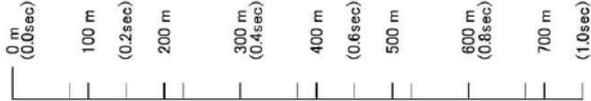
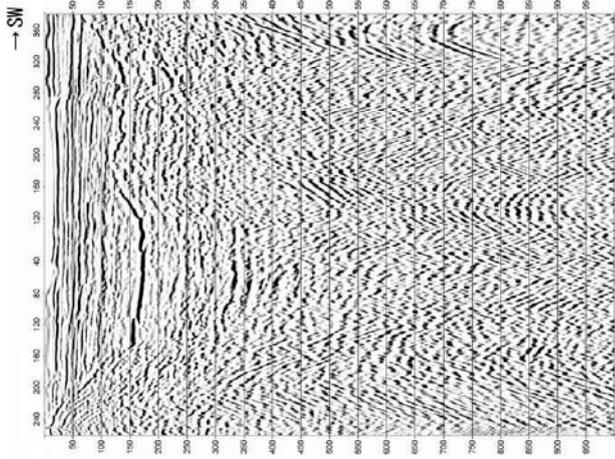
V.E. ≒ 6



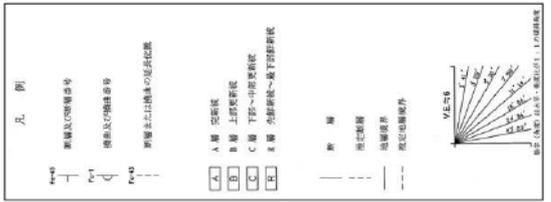
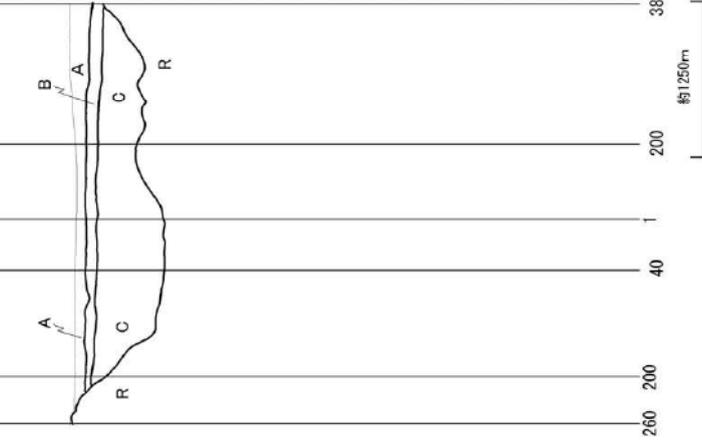
第 3.2.174 図 (6)

保安院調査による変形構造確認箇所付近の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 NW3)

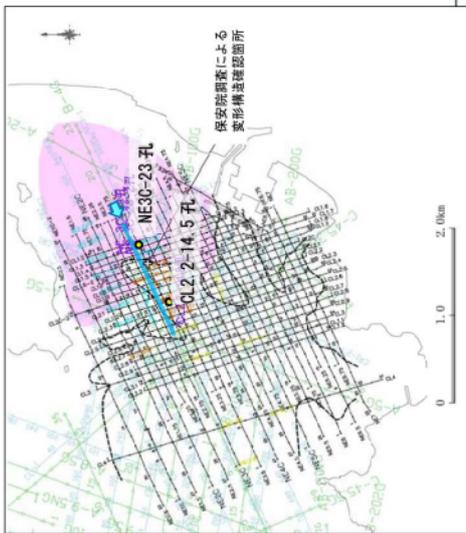
CR1
関西電力(2013)
G I ガン・マルチ



V. E. ≒ 6

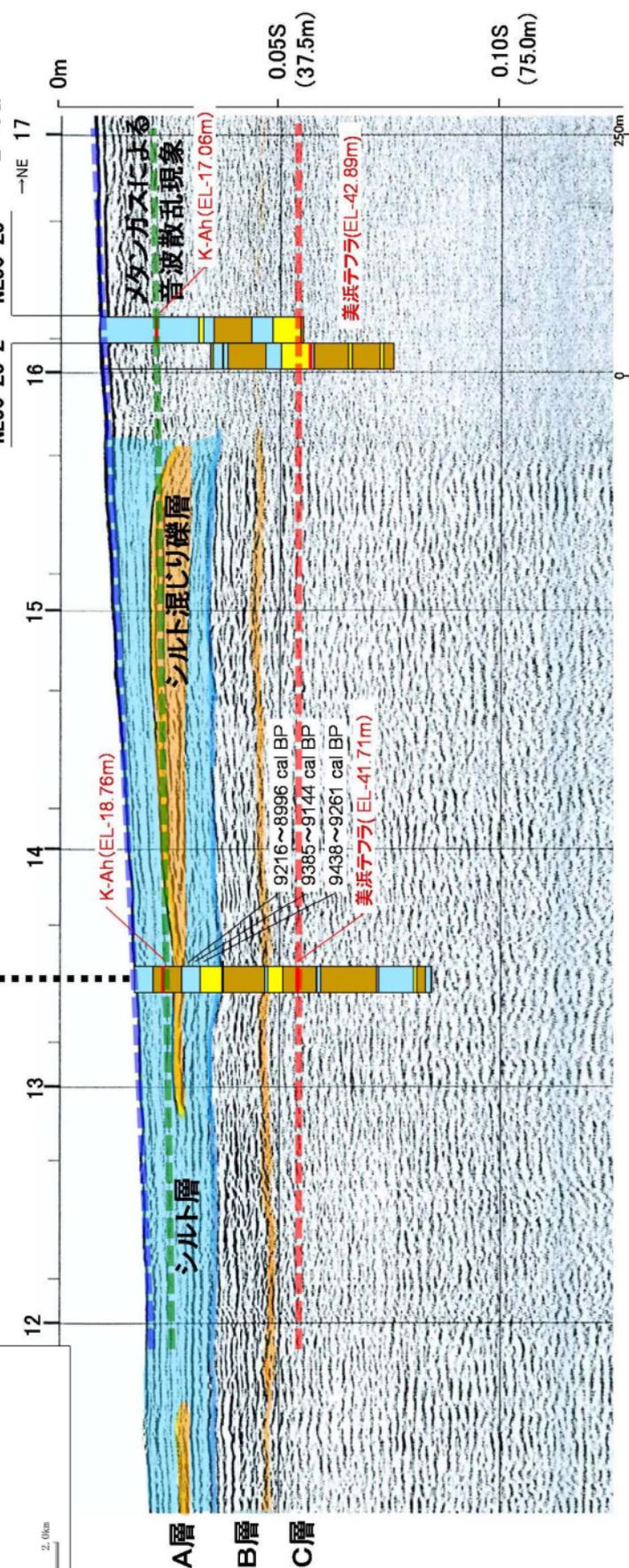


保安院調査による変形構造確認箇所付近の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 CR1)
第 3.2.174 図 (7)
6-3-480

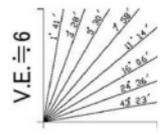


- 凡例
- A層中に見られるマッドレイクの堆積構造の場所
 - 非脱炭素風
 - 関西電力(株)シオノハラス・ショートマツチ(2006年調査)
 - 関西電力(株)シノハラス・ショートマツチ(2006, 2007年調査)
 - 関西電力(株)チャープナー(2010年調査)
 - 関西電力(株)G1ボク・マルチ(2013年調査)
 - 関西電力(株) 社務部の調査(2013年調査)
 - 関西電力(株) 社務部の調査(2013年調査)
 - シルト混じり砂が認められた地点
 - シルト混じり層が認められた地点
 - 関西電力(株) 海上ボーリング装置(2013年調査)
 - 原子力安全・防災院の調査で実用構造が確認された箇所

孔口標高:EL-13.81m
*投影CL 2-14.5



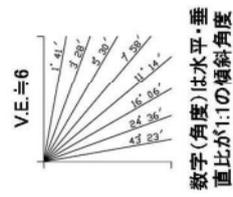
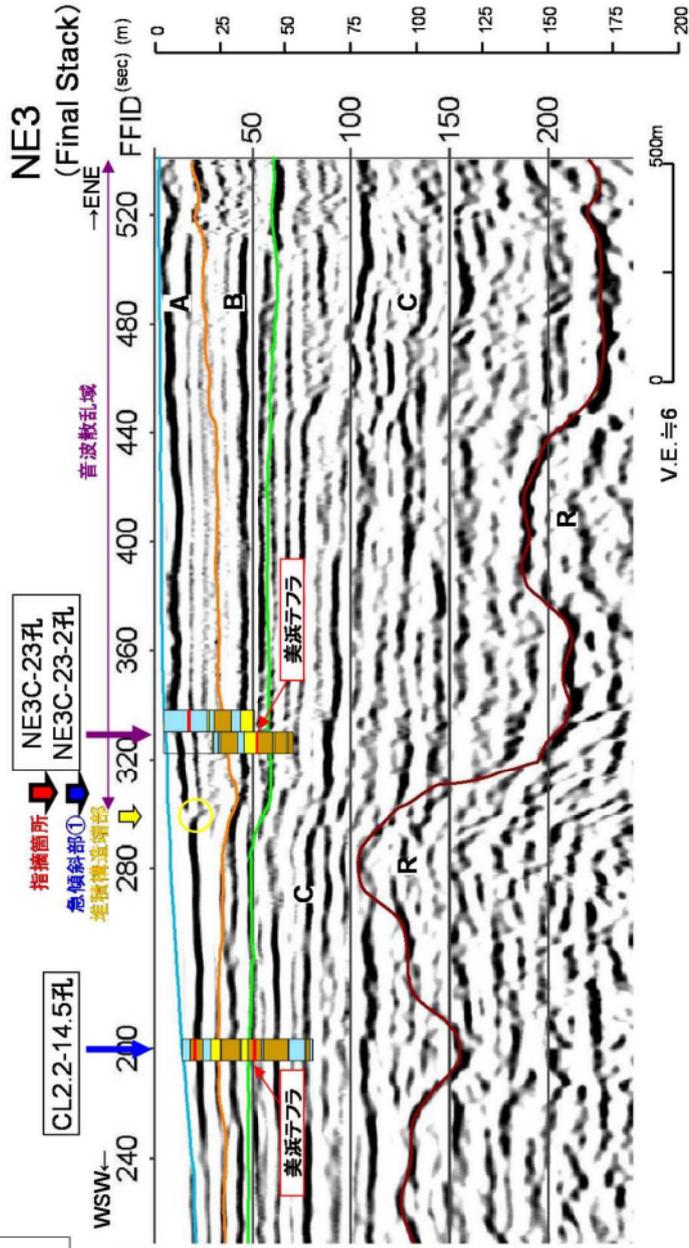
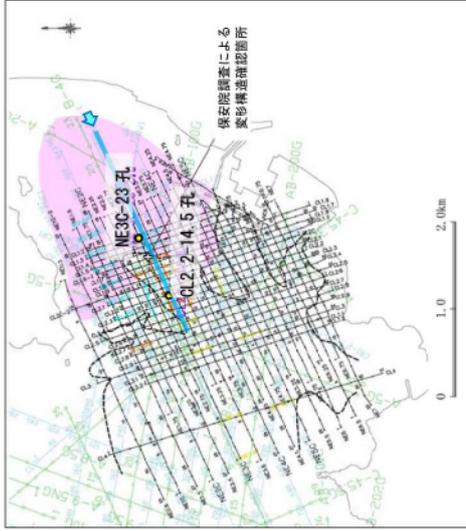
- 柱状図凡例
- シルト質
 - シルト混じり砂
 - シルト混じり礫



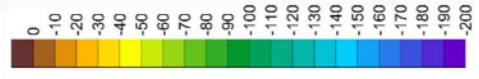
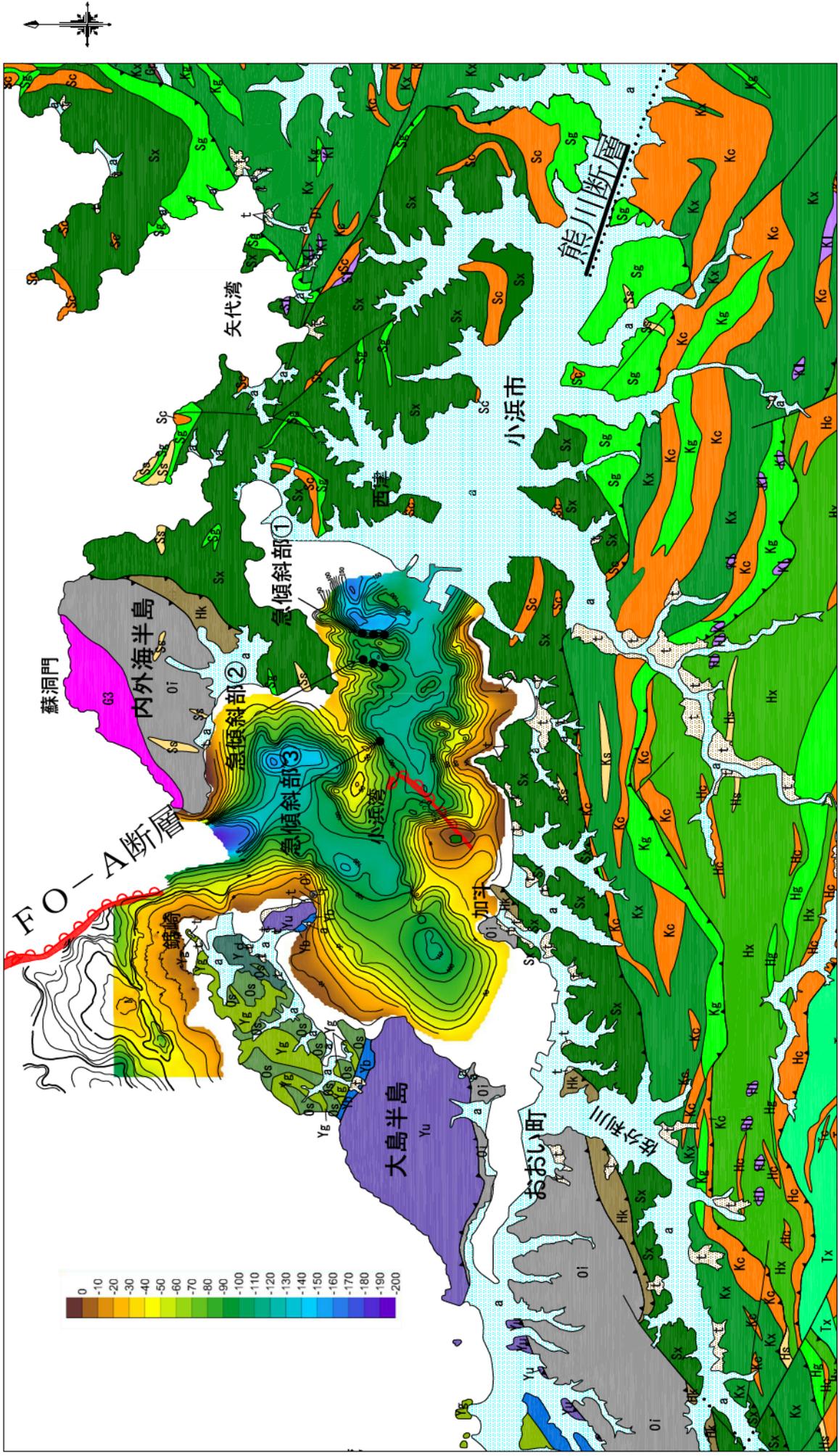
数字(角度)は
水平・垂直比が
1:1の傾斜角度

- ・美浜テフラはC層上面付近に降灰し、ほぼ同じ標高で出現している。
- ・海底面及びK-Ahテフラの出現標高は、C層コアよりNEコアの方が浅い。これは、小浜湾内における反時計回りの環流の影響から、東側湾奥が厚く堆積している事を反映している。

第 3.2.176 図(2) 保安院調査による変形構造確認箇所付近の海上音波探査記録及び海上ボーリング調査結果(測線 B-4G) 6-3-483



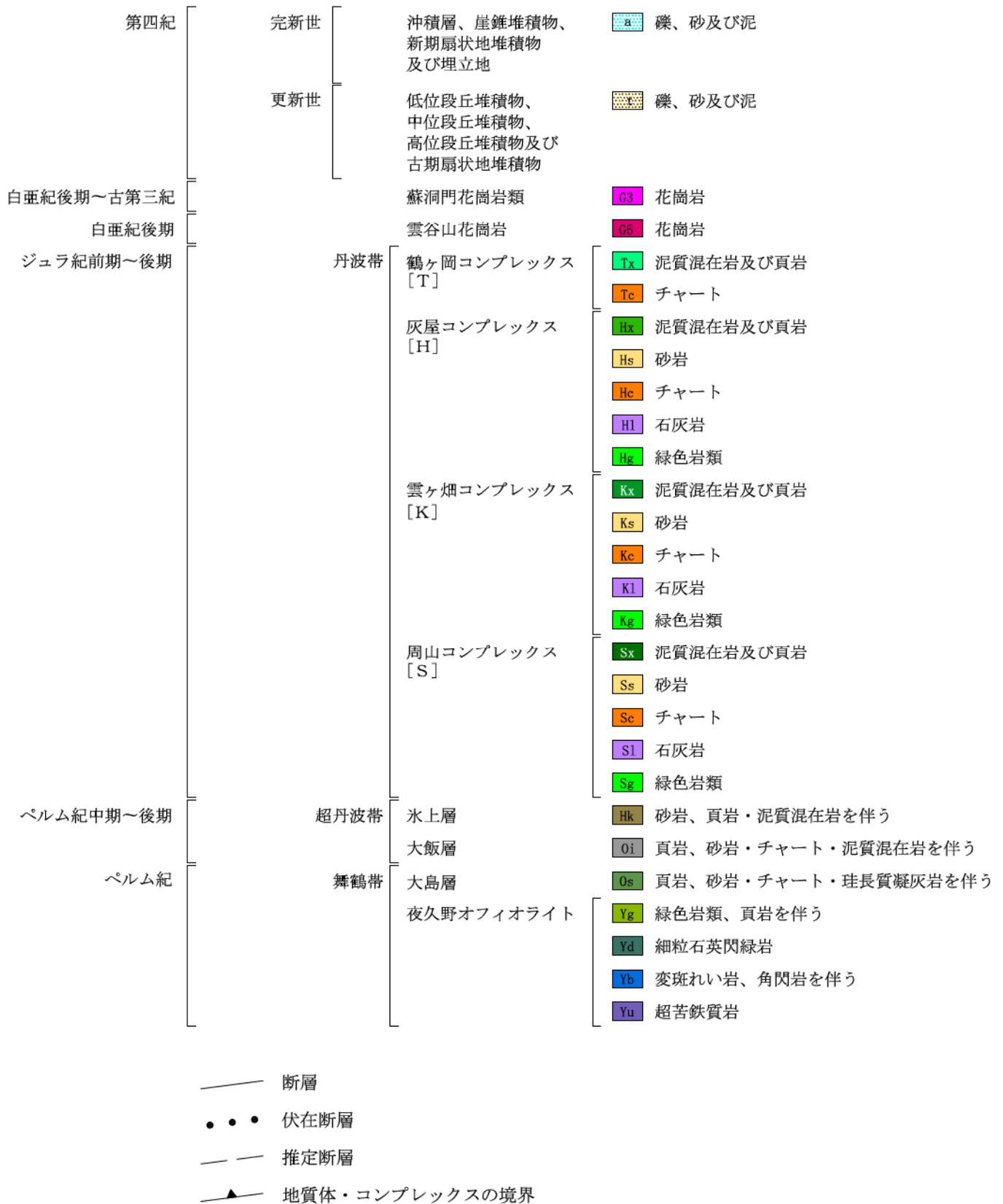
・記録断面で見られるB/C境界面の落差は0.011秒であり、伝播速度を1,500m/sと仮定した場合には8.25mとなるが、海上ボーリングの結果、そのような落差は見られなかった。



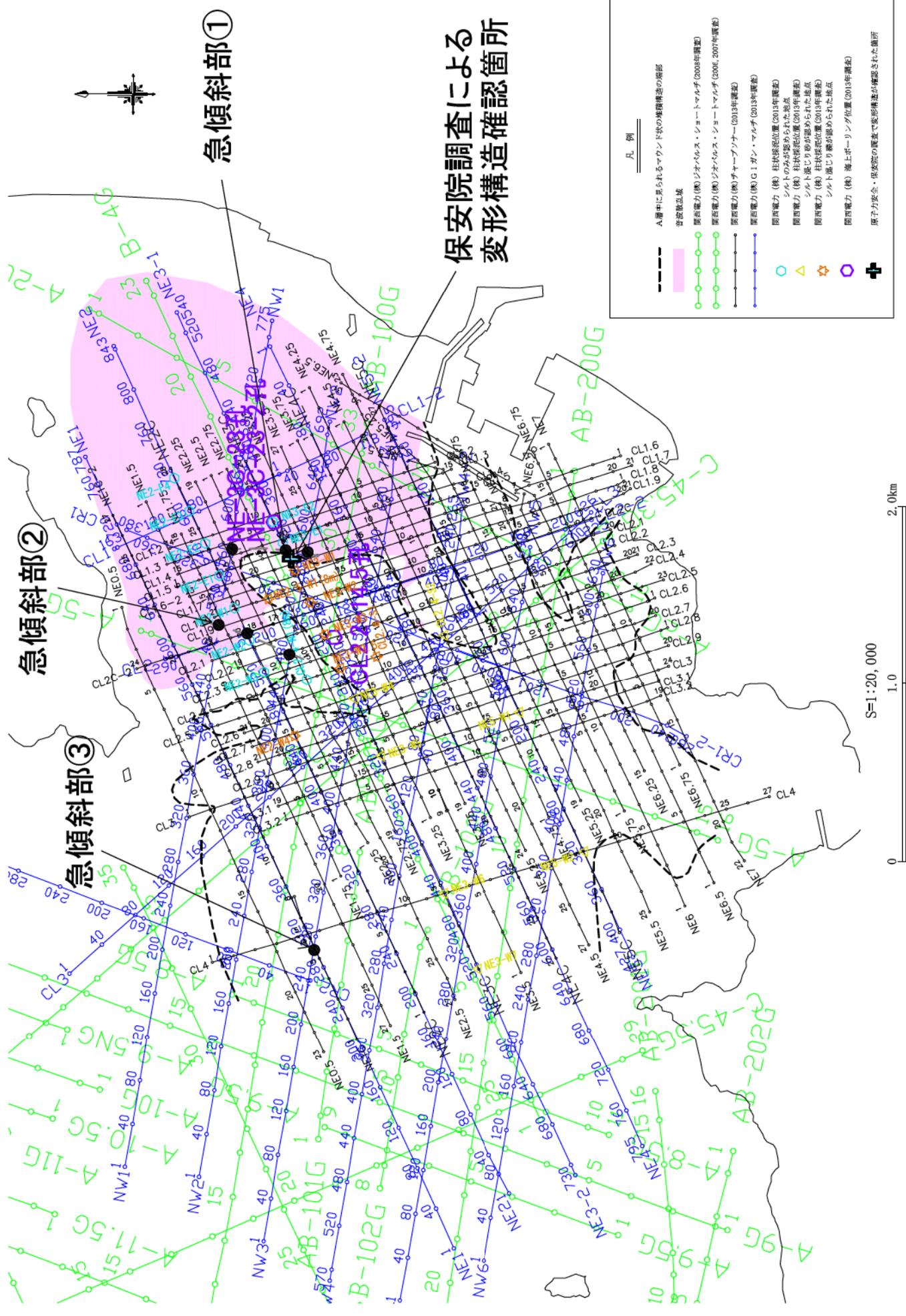
※地質図の凡例は次ページ

第3.2.177図(1) 小浜湾内の音響基盤上面等深線図
6-3-485

凡 例



第3.2.177図(2) 小浜湾内の音響基盤上面等深線図 地質凡例



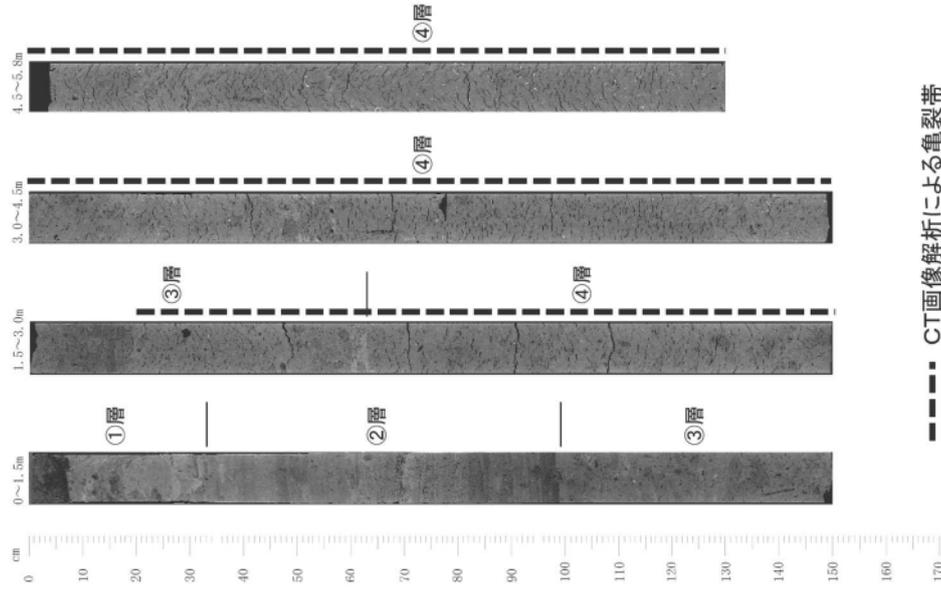
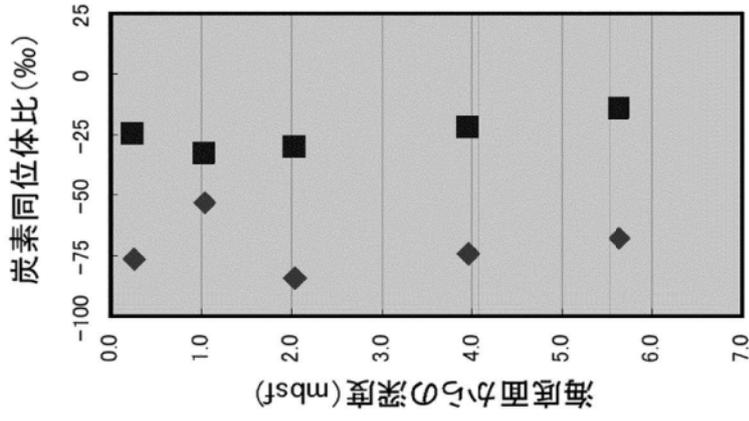
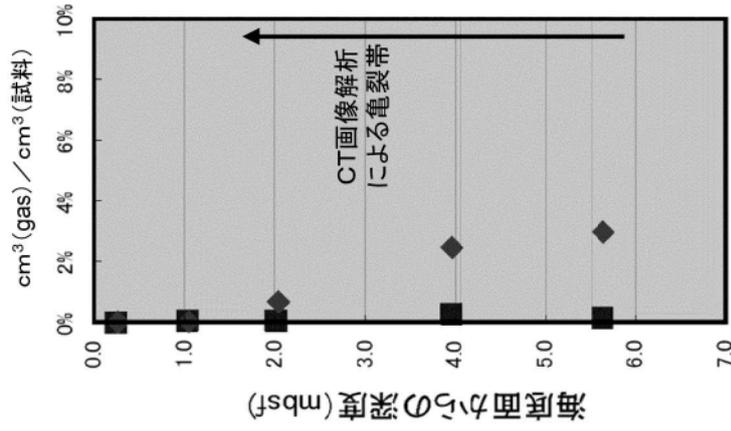
保安院調査による
変形構造確認箇所

凡例

- A層中に表れるマウンテン状の埋設構造の境界
- 管束敷設線
- 関西電力(株)ジョパルス・ショートマルチ(2008年調査)
- 関西電力(株)ジョパルス・ショートマルチ(2006, 2007年調査)
- 関西電力(株)チャープソナー(2013年調査)
- 関西電力(株)G1ガン・マルチ(2013年調査)
- 関西電力(株)柱状探照位置(2013年調査)
- シルトのみが認められた地点
- 関西電力(株)柱状探照位置(2013年調査)
- シルト底じり部が認められた地点
- 関西電力(株)柱状探照位置(2013年調査)
- シルト底じり部が認められた地点
- 関西電力(株)海上ボーリング位置(2013年調査)
- 原子力安全・保安院の調査で変形構造が確認された箇所

第3.2.178図 保安院調査による変形構造確認箇所付近の海上音波探査結果
6-3-487

単位体積(試料)中のガスの体積



- ①層：深度0～0.33m
 - ・海底面直下の軟弱なシルト層。堆積構造は乱れている。
- ②層：深度0.33～0.99m
 - ・厚さ数mm～数cmの単層からなるほぼ平行な弱い堆積構造が認められる。最下部3cmにCT値の低い部分が見られる。
- ③層：深度0.99～2.13m
 - ・シルト層。貝殻片が混じる。生痕が多く見られ、生物擾乱により堆積構造は不明。深度1.70m以深に亀裂が多く見られる。
- ④層：深度2.13～5.80m
 - ・比較的均質なシルト層。生痕は③層よりも少ないが、貝殻片は多く含む。全体に亀裂が見られる。

--- CT画像解析による亀裂帯

・深度2～3m以深でメタンガスが増加。(CT画像解析による亀裂帯と整合)

・メタン以外の炭化水素ガスが検出されない。

・メタンの炭素同位体比は-75‰前後と小さいため、このメタンは有機物の微生物分解により生成したと考えられる。

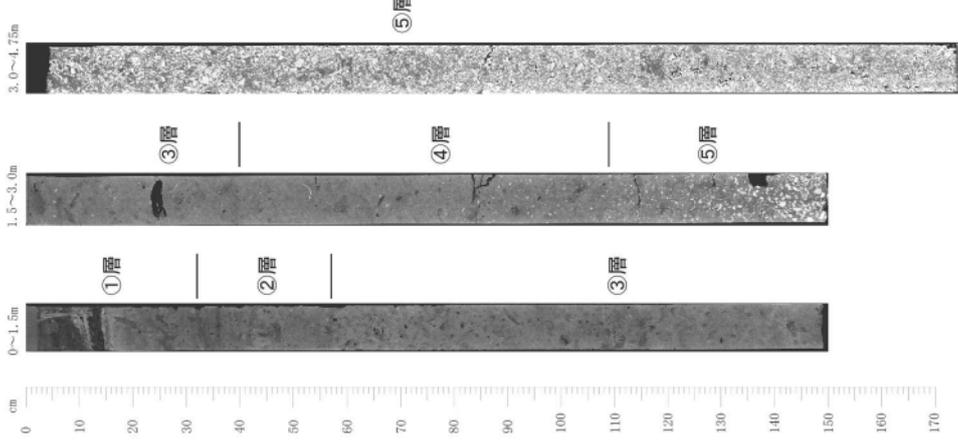
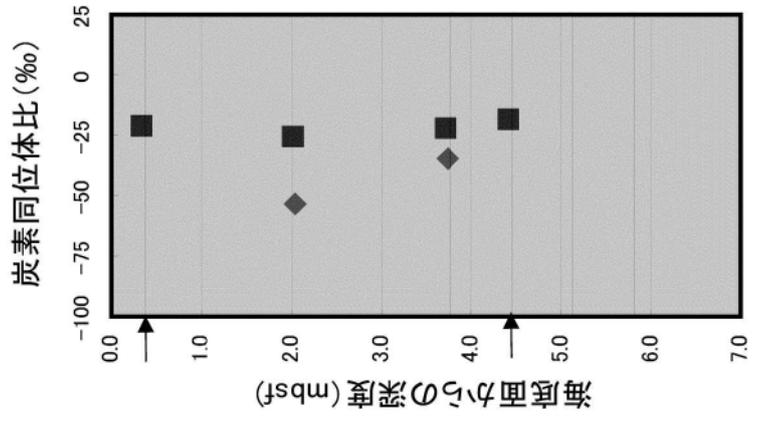
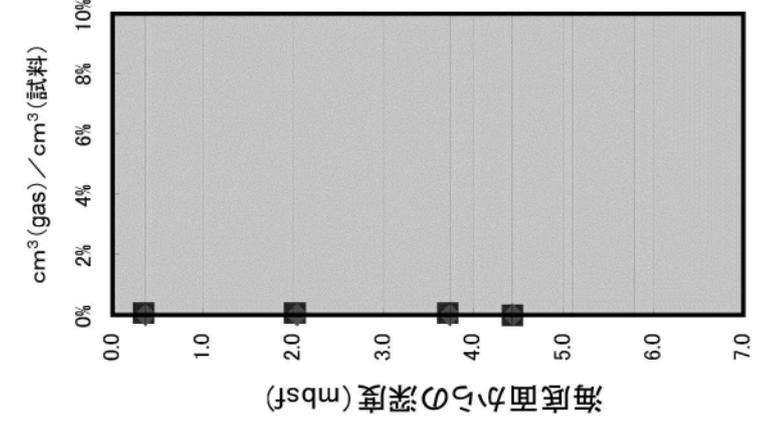
・深度1.0mではメタンの炭素同位体比は重く、二酸化炭素の炭素同位体比は軽くなっている。これはメタンが表層において酸化した可能性がある。



第 3.2.179 図(1)

保安院調査による変形構造確認箇所付近のガス分析結果(音波散乱域内、NE3-E1)

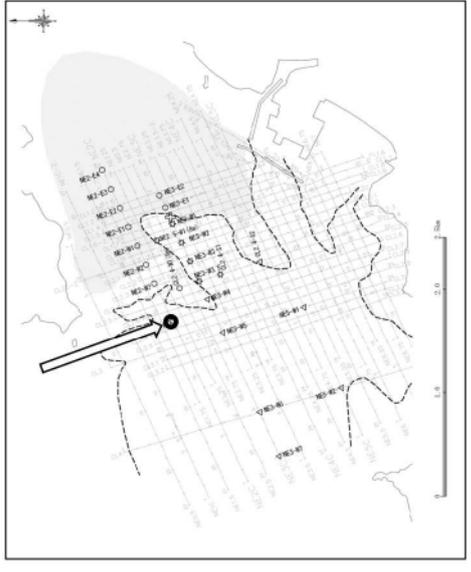
単位体積(試料)中のガスの体積



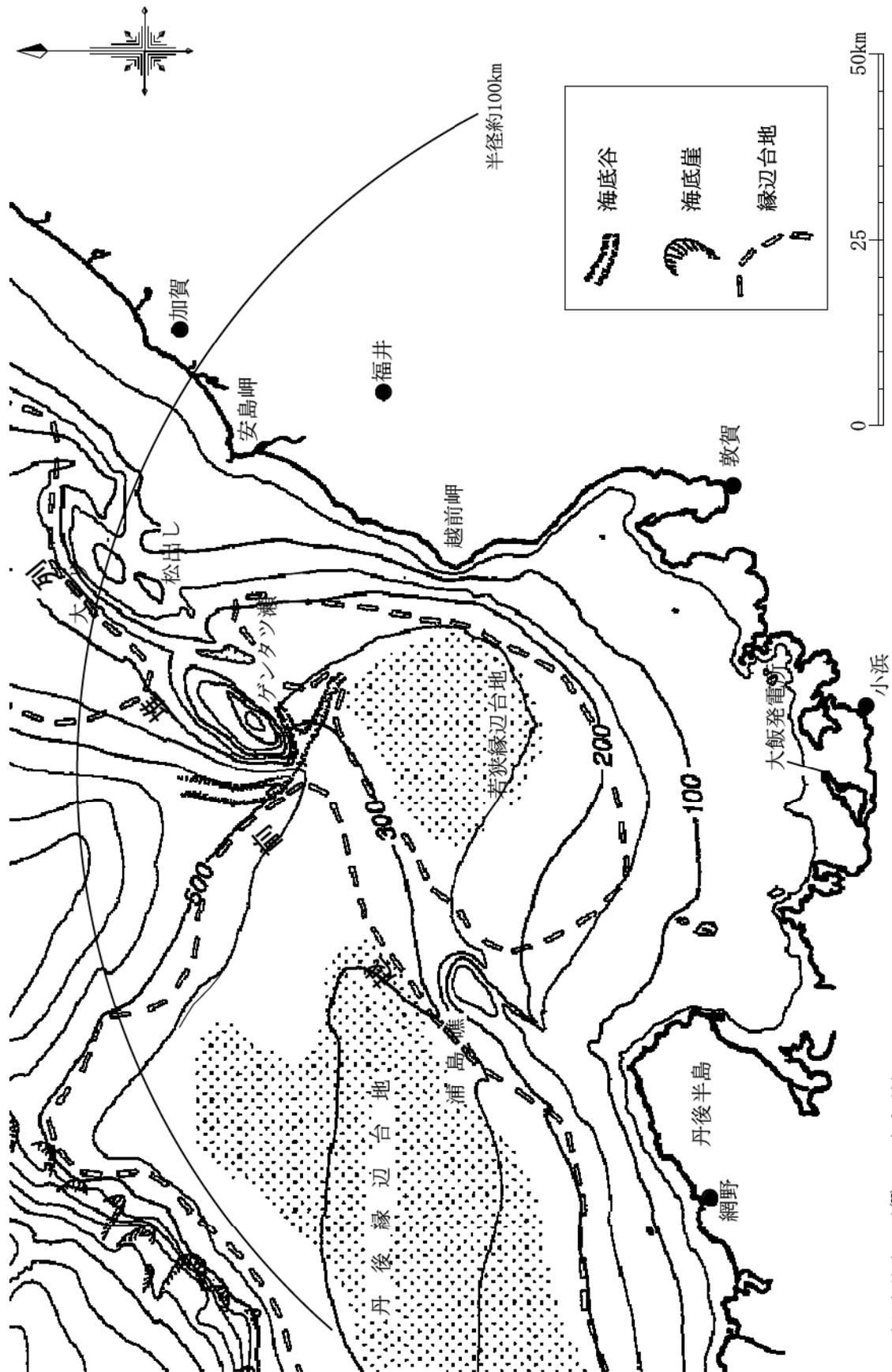
- ①層：深さ0～0.32m
 - ・海底面直下の軟弱なシルト層。堆積構造は乱れている。
- ②層：深さ0.32～0.57m
 - ・ほぼ平行な弱い堆積構造が認められる。やや構造が乱れており部層等の厚さは不明。
- ③層：深さ0.57～1.90m
 - ・シルト層。貝殻片が混じる。
 - ・生痕が多く見られ、生物擾乱により堆積構造は不明。
- ④層：深さ1.90～2.59m
 - ・砂混じりシルト層。生痕は③層よりも少ないが、貝殻片は多く含む。
 - ・下部ほど砂礫が混じる。
- ⑤層：深さ2.59～4.75m
 - 砂礫層

・メタンの存在は極めて微量であるが、炭素同位体比から微生物活動により酸化し、軽い二酸化炭素に置き換わっている。

* 炭素同位体比の→はメタン濃度が極めて低いために正確な同位体比が求められない。



第 3. 2. 179 図(2) 保安院調査による変形構造確認箇所付近のガス分析結果(音波散乱域外、NE2-W4)



(山本他(2000)⁽⁵⁷⁾ に一部加筆)

第3.2.180図 敷地周辺海域の海底地形

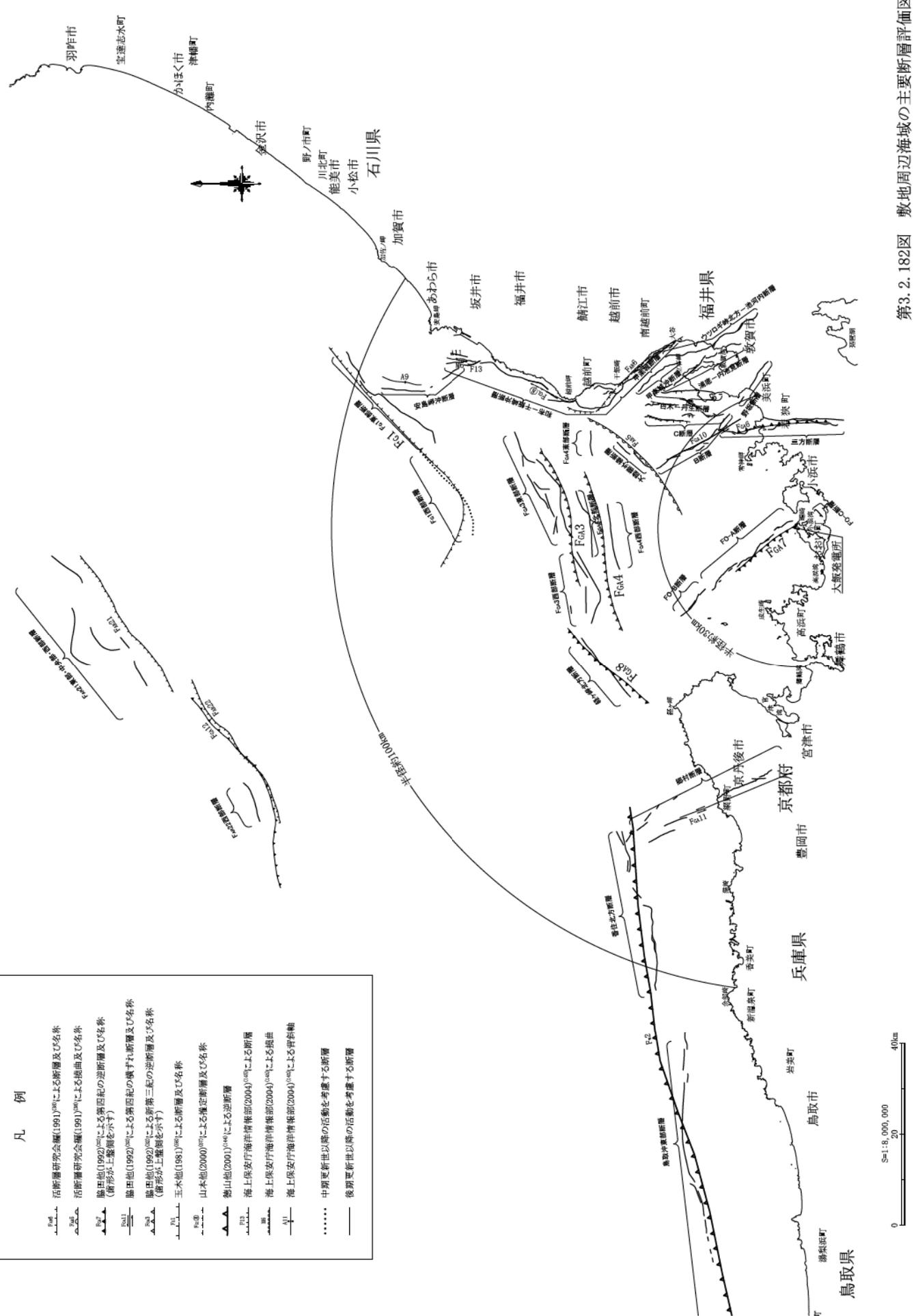


| 凡例 | |
|---|-----|
| 活断層研究会編(1991) ²⁶⁾ による断層及び名称 | —●— |
| 活断層研究会編(1991) ²⁶⁾ による地曲及び名称 | —▲— |
| 藤田他(1992) ²³⁾ による第四紀の逆断層及び名称 (線形が上遷層を示す) | —▲— |
| 藤田他(1992) ²³⁾ による第四紀の横ずれ断層及び名称 (線形が上遷層を示す) | —▲— |
| 玉木他(1981) ²⁸⁾ による断層及び名称 | —▲— |
| 山本他(1993) ²⁵⁾ による断層及び名称 | —▲— |
| 山本他(2000) ²⁷⁾ による断層及び名称 | —▲— |
| 山本他(2000) ²⁷⁾ による伏在断層・推定断層及び名称 | —▲— |
| 海上保安庁海洋情報部(2004) ⁴⁾ による断層 | —▲— |
| 海上保安庁海洋情報部(2004) ⁴⁾ による地曲 | —▲— |
| 海上保安庁海洋情報部(2004) ⁴⁾ による背斜軸 | —▲— |
| 海上保安庁水害部(1980a) ²²⁾ (1980b) ²²⁾ による断層 | —▲— |
| 藩井県(1997) ¹⁰⁾ による断層及び名称 | —▲— |
| 藩井県(1997) ¹⁰⁾ による地曲及び名称 | —▲— |
| 豊山他(2001) ¹⁹⁾ による逆断層 | —▲— |

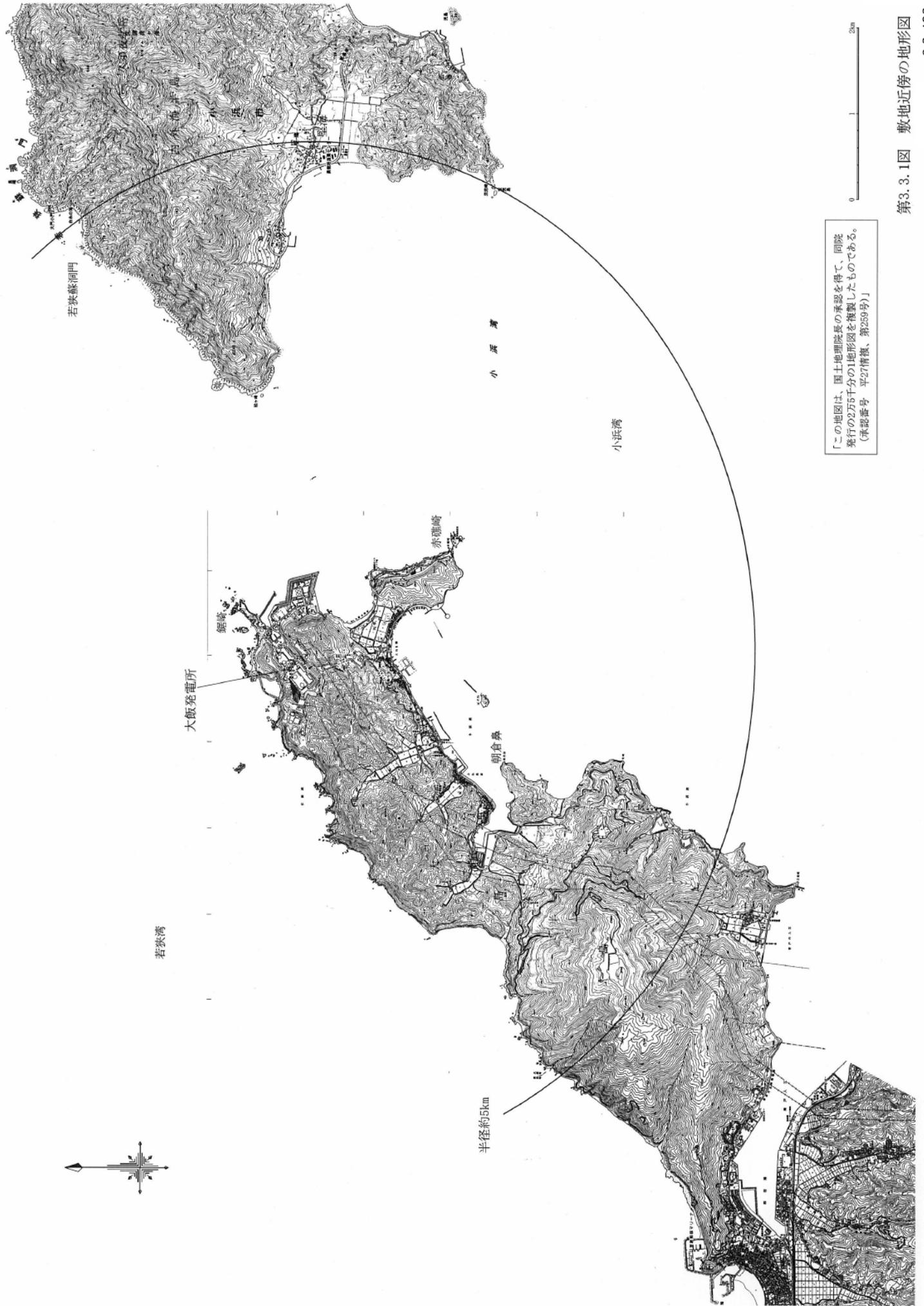
第3.2.181図 敷地周辺海域の主要断層分布図

凡 例

- Fc1 — 活断層研究会(1991)⁽⁹¹⁾による断層及び名称
- Fc2 — 活断層研究会(1991)⁽⁹¹⁾による断層及び名称
- Fc3 — 藤田他(1992)⁽⁹²⁾による断層及び名称
(断層が上盤側を示す)
- Fc4 — 藤田他(1992)⁽⁹²⁾による断層及び名称
(断層が上盤側を示す)
- Fc5 — 藤田他(1992)⁽⁹²⁾による断層及び名称
(断層が上盤側を示す)
- Fc6 — 玉木他(1981)⁽⁸¹⁾による断層及び名称
- Fc7 — 山本他(2000)⁽⁰⁰⁾による断層及び名称
- Fc8 — 藤山他(2001)⁽⁰¹⁾による断層
- Fc9 — 海上保安庁海洋情報部(2004)⁽⁰⁴⁾による断層
- Fc10 — 海上保安庁海洋情報部(2004)⁽⁰⁴⁾による断層
- Fc11 — 海上保安庁海洋情報部(2004)⁽⁰⁴⁾による断層
- 中期更新世以降の活動を考慮する断層
- 後期更新世以降の活動を考慮する断層

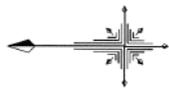


第3.2.182図 敷地周辺海域の主要断層評価図



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平27精復、第259号)」

第3.3.1図 敷地近傍の地形図 6-3-493



若狭湾

大飯発電所

錦崎

朝倉鼻

赤碓崎

半径約5km

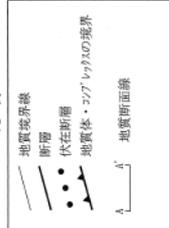
小浜湾

若狭蘇洞門



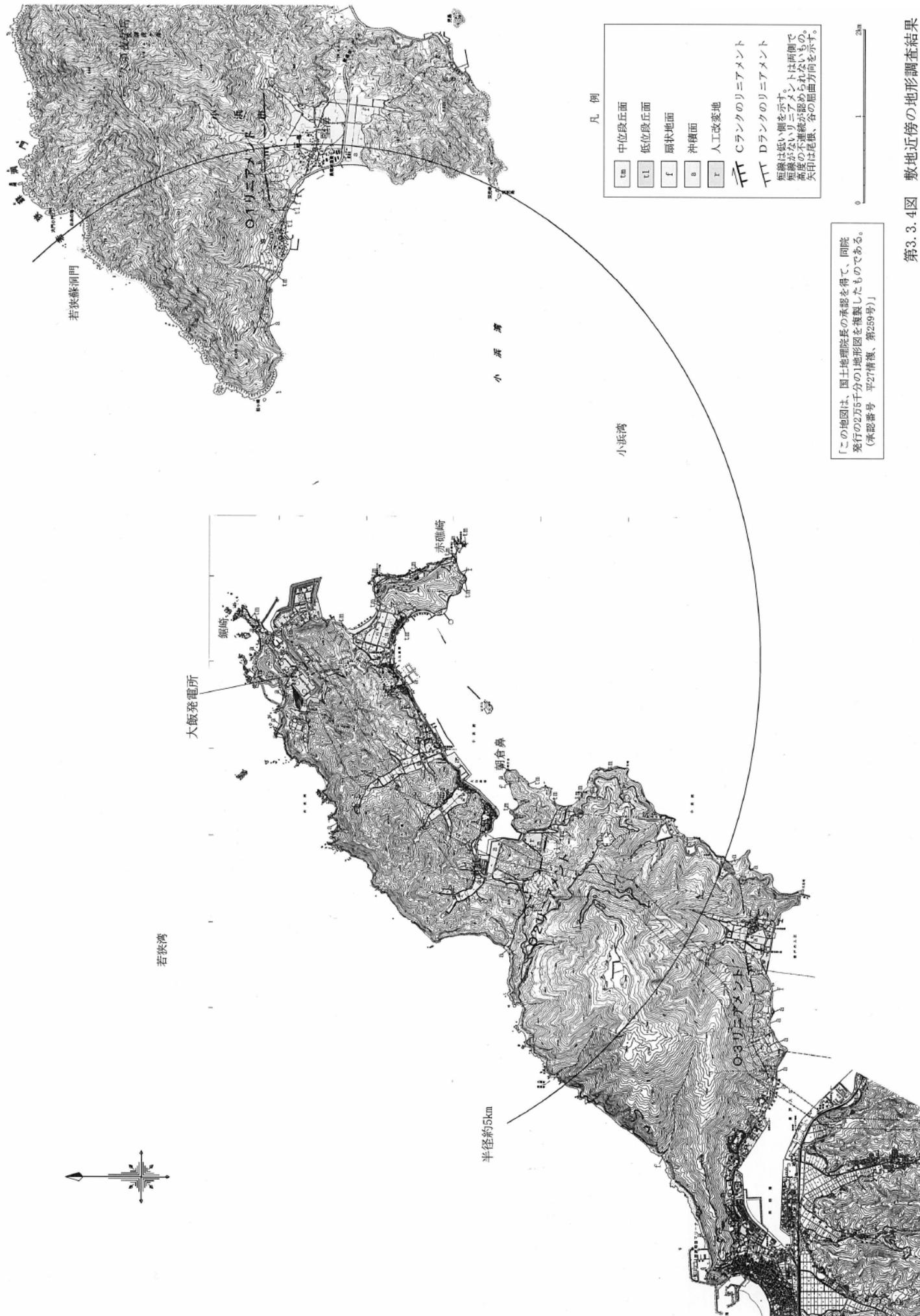
地質凡例

| 地質年代 | 記号 | 地層名等 | 主要構成地層 |
|------|------|---------------|------------|
| 新生代 | a | 人工改変地 | |
| | f | 沖積層 | 礫、砂、シルト、粘土 |
| | cl | 扇状地堆積物 | 礫、砂、シルト |
| 中生代 | tm | 低位丘陵堆積物 | 礫、砂、シルト |
| | 0r | 中位丘陵堆積物 | 礫、砂、シルト |
| | Ss | 蘇洞門花崗岩類 | 黒雲母花崗岩 |
| 古生代 | Sx | | 砂岩 |
| | Ss | | 泥質砂岩及び頁岩 |
| | Sc | 岡山コブワツタ | チャート |
| | Sg | | 緑色岩類 |
| | Bks | 米上層 | 砂岩 |
| | Bksh | (T12277 ワツタ) | 頁岩 |
| 古生代 | Olse | | 砂岩 |
| | Olsh | 大飯層 | 頁岩 |
| | Oich | (T22277 ワツタ) | 頁岩 |
| | Ysh | 夜久野付仔(小(大島層)) | 頁岩 |
| | Yfs | | 珪長岩 |
| 古生代 | Ypd | | 細粒石英閃緑岩 |
| | Yng | | 変斑れい岩 |
| | Yc | 夜久野付仔(小) | 超苦鉄質岩 |



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平30情復、第271号)」

第3.3.2図 敷地近傍の地質図



若狭湾

大飯発電所

半径約5km

朝倉島

赤礁崎

小浜湾

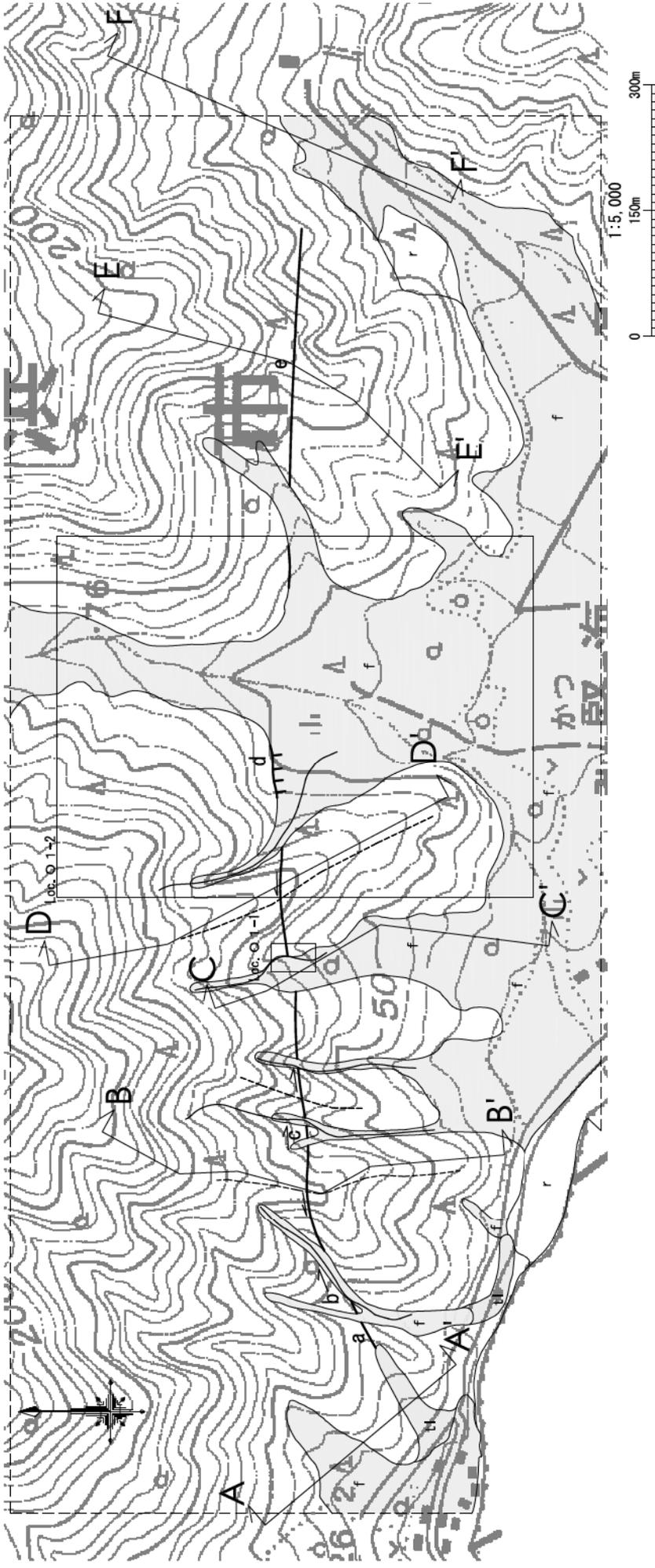
若狭蘇洞門

凡例

- 中位段丘面
 - 低位段丘面
 - 扇状地面
 - 沖積面
 - 人工改変地
 - Cランクのリニアメント
 - Dランクのリニアメント
- 短線は低い側を示す。
 短線がないリニアメントは両側で
 高度の不連続線が認められないもの。
 矢印は尾根、谷の屈曲方向を示す。

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平27情保、第259号)」

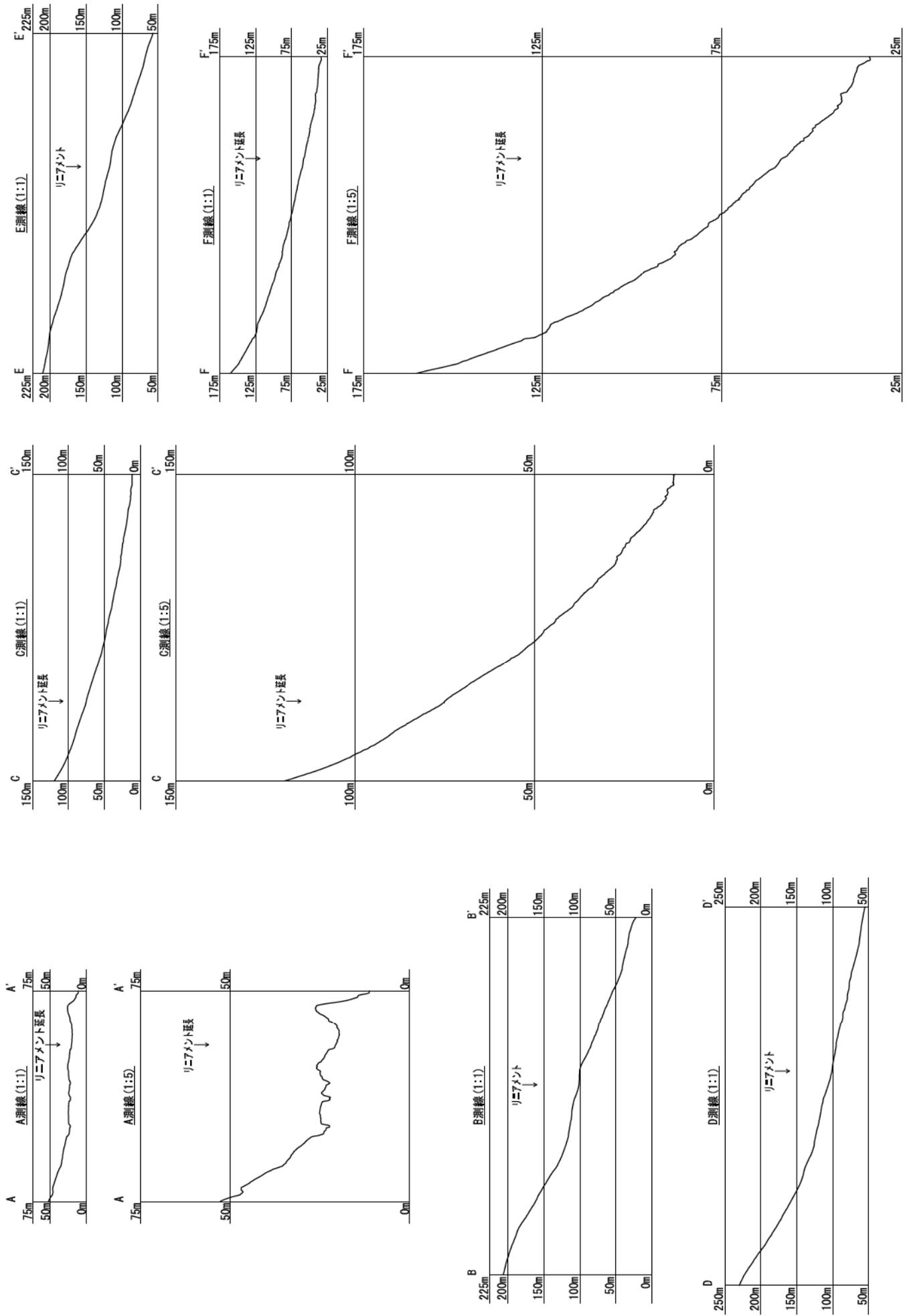




「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平27権複、第259号)」

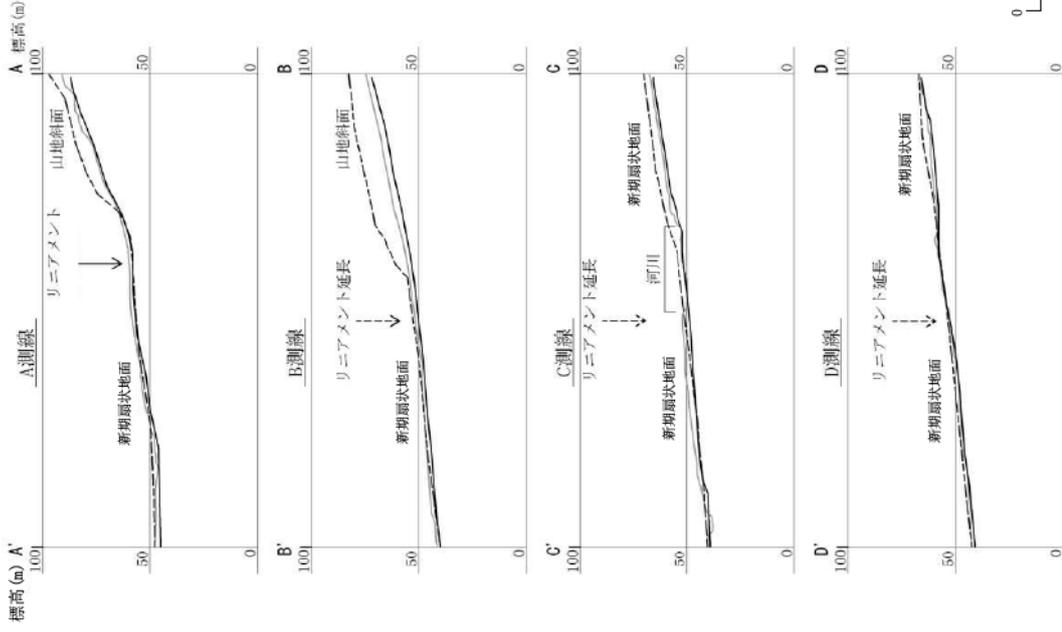
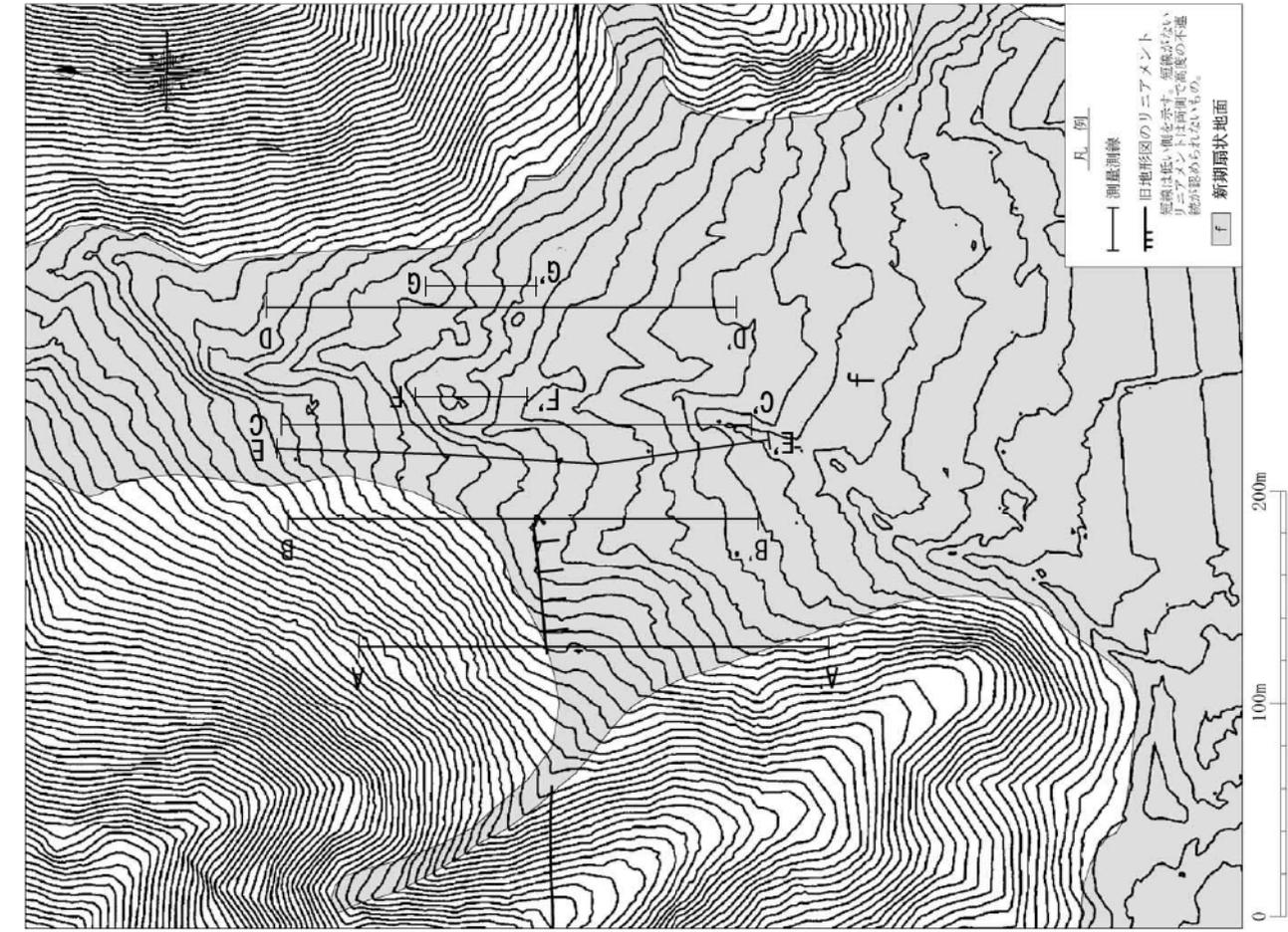
| | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> □ 低位段丘面 □ 新期扇状地面 □ 人工改変地 a リニアメント判読要素位置 Loc 詳細調査位置 (ルートマップ、スケッチ等) ┌ 表示範囲 | <p>凡 例</p> <ul style="list-style-type: none"> — Cランクのリニアメント 短線は低い側を示す。矢印は尾根、谷の屈曲方向を示す。尾線がないリニアメントは両側で高度の不連続性が認められないもの。 — 谷の屈曲 — 尾根の屈曲 └ 地形断面作成位置 |
|---|--|

第3.3.5図 O1リニアメント周辺の地形調査結果



※リニアメントが扇状地面を横断する測線では、縦横比1：5の断面図を作成した。

第3.3.6図 O1リニアメント 航空レーザー測量結果による地形断面図

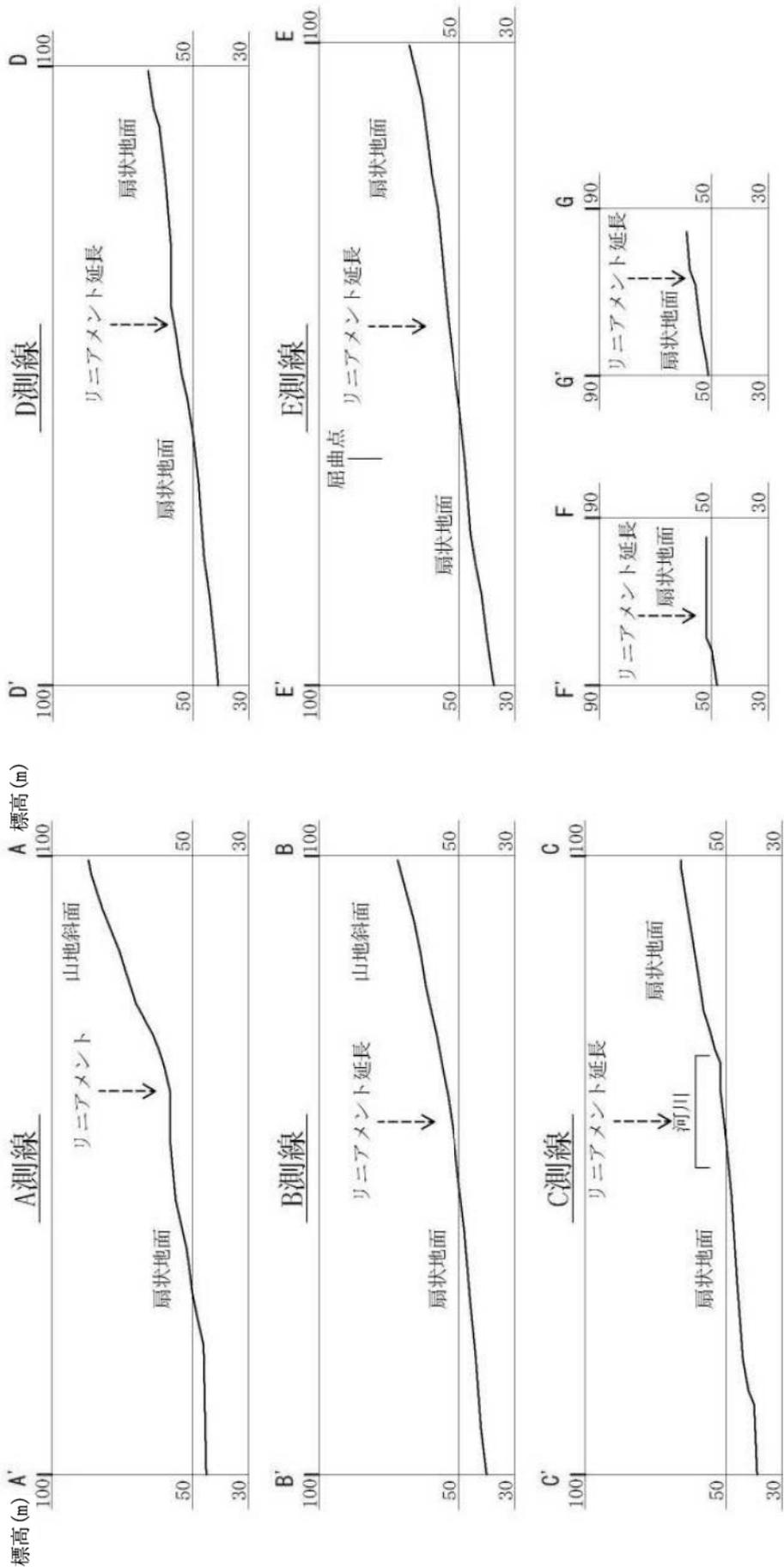


航空レーザー測量断面図と
縦断測量結果との対比断面図

・航空レーザー測量の結果、国土基本図 (1/5,000) で示された急斜面は認められず、斜面の最大傾斜方向はリニアメント直交方向と斜交し、新期扇状地面にも低断層崖は認められない。
・航空レーザー測量に基づく断面と縦断測量結果は整合する。

第 3.3.7 図(1) O1 リニアメント 航空レーザー測量平面図・断面図(Loc. O 1-2) (1)

航空レーザー測量平面図



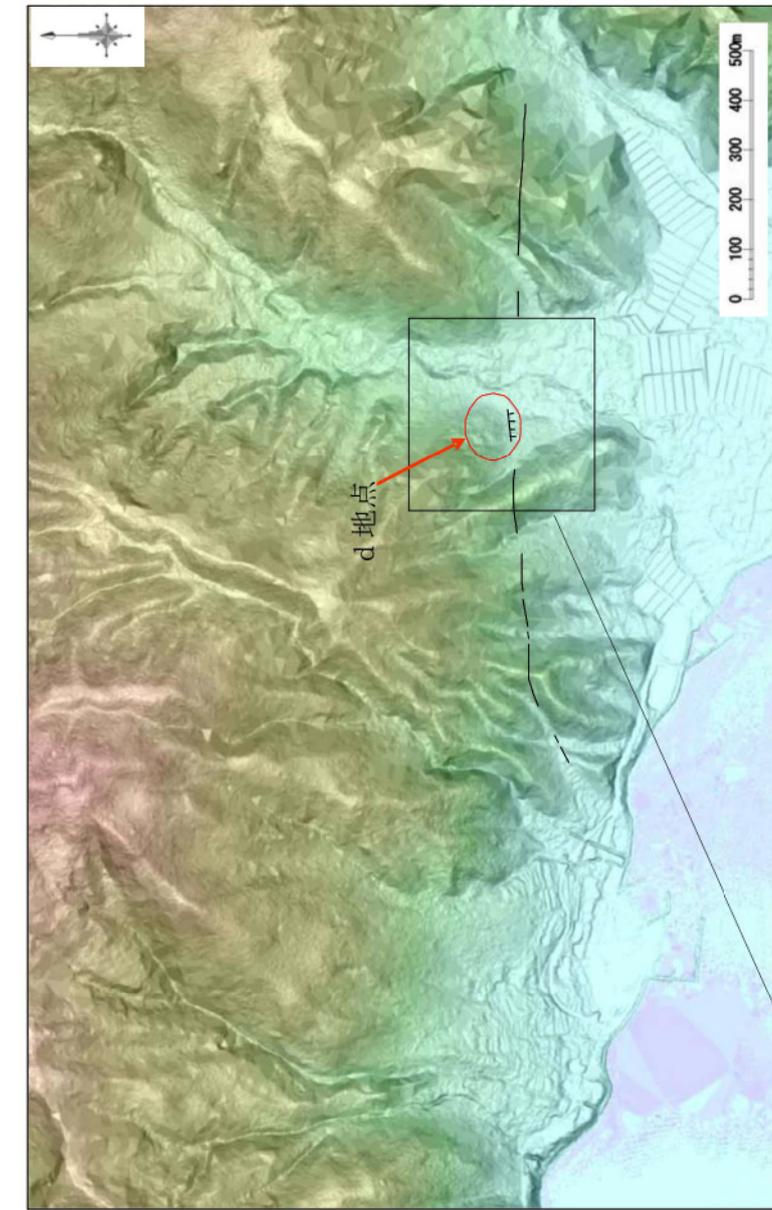
—— 航空レーザー測量に基づく断面線

※断面位置は前頁に示す。

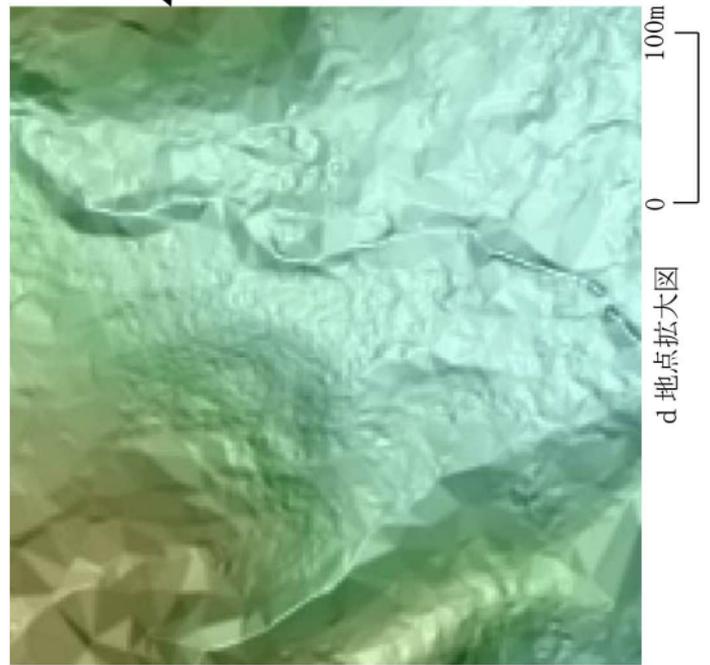
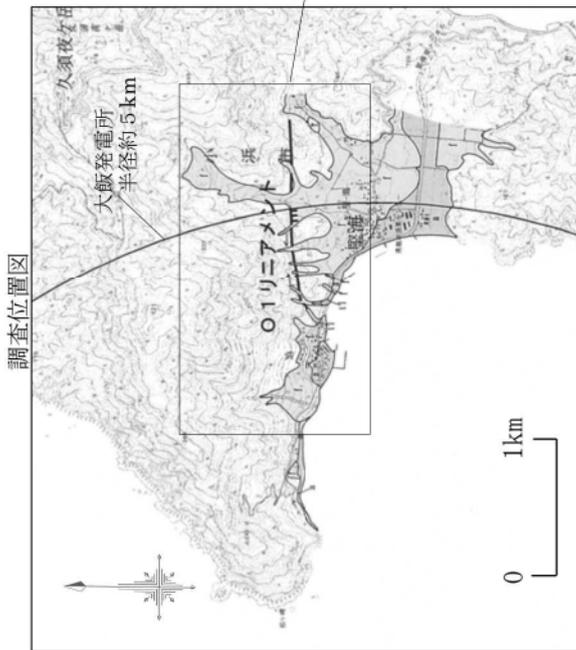
航空レーザー測量結果による地形断面図

•航空レーザー測量の結果、国土基本図(1/5,000)で示された急斜面は認められず、扇状地面にも低断層崖は認められない。

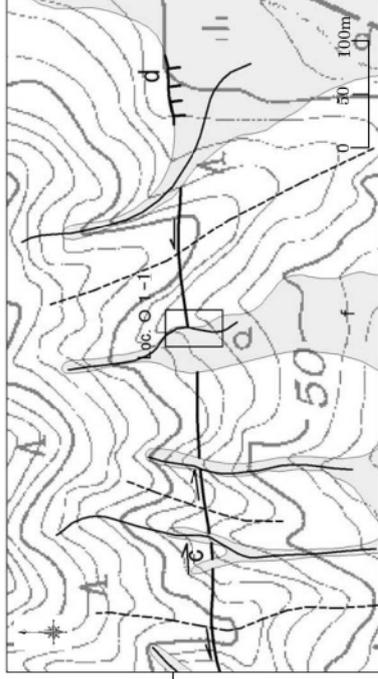
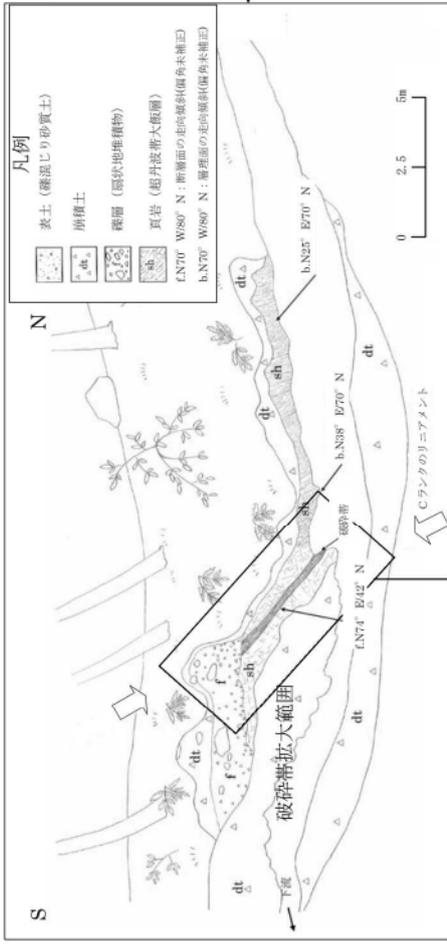
第 3. 3. 7 図(2) O1 リニアメント 航空レーザー測量平面図・断面図 (Loc. O1-2) (2)



航空レーザー測量結果から作成した標高傾斜図
(O1リニアメントを転記)

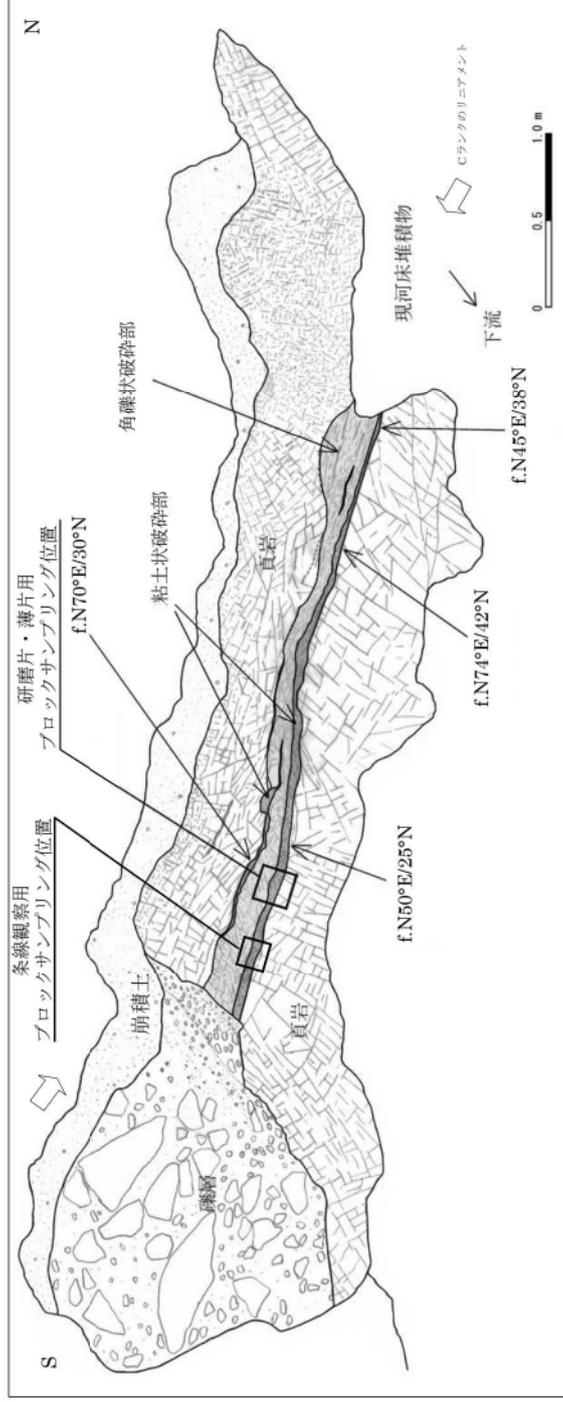


第3.3.8図 O1リニアメント 標高傾斜図 (Loc. O1-2)



調査位置図

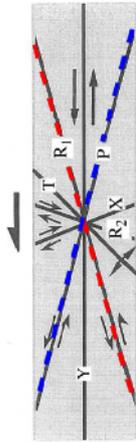
「この地図は、国土院院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平27情復、第259号)」



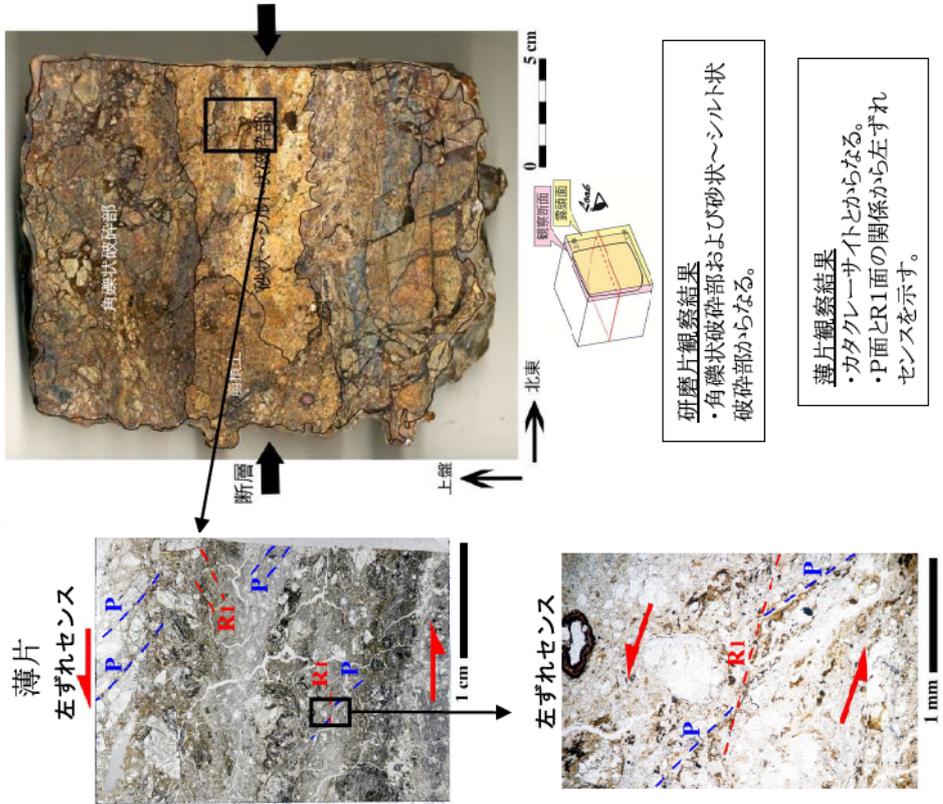
露頭スケッチ

- Loc. O 1-1 で幅 20m 程度の剥ぎ取り調査を行った。
- リニアメント直下の超丹波帯頁岩の連続分布域で、断層を確認した。
- 断面は、リニアメントの方向とほぼ調和的な走向傾斜を示し、直線性は認められず湾曲する。
- 破砕帯は著しく膨縮する(幅約 20~30cm)。角礫状破砕部(片状~岩片状)は固結しており、上盤側では割れ目の発達した頁岩に漸移する。破砕帯に含まれる粘土状破砕部(灰白色)も幅 0.5~7cm と著しく膨縮する。
- 頁岩との境界に認められる粘土状破砕部を伴う断面面でブロックをサンプリングし、変形組織の観察及び糸線観察を実施した。

第 3.3.10 図 O 1 リニアメント ルートマップ・露頭スケッチ (Loc. O 1-1)



せん断セグメントを示す複合面構造
(狩野・村田、1998(US)を反転)



研磨片 (縦ずれ成分観察用)

断層

上盤

北西
(水平)

断層の
最大傾斜方向

鉛直下向き

0 5 cm

観察断面
露出面

角礫状破砕部
砂状～シルト状破砕部

正断層セグメント

1 cm

正断層セグメント

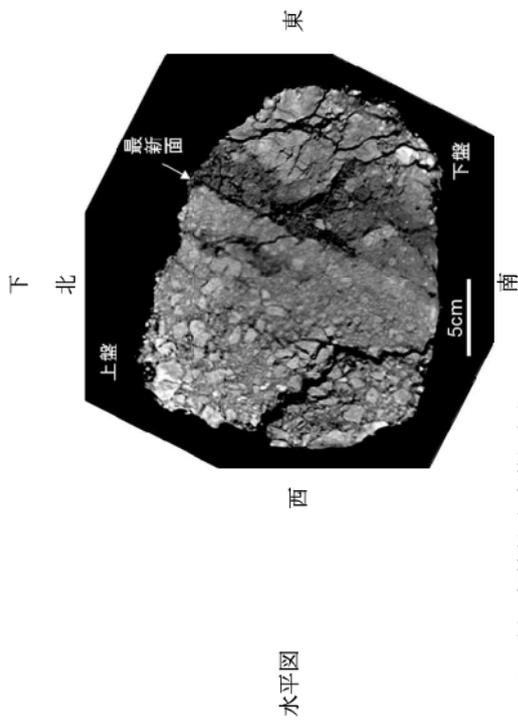
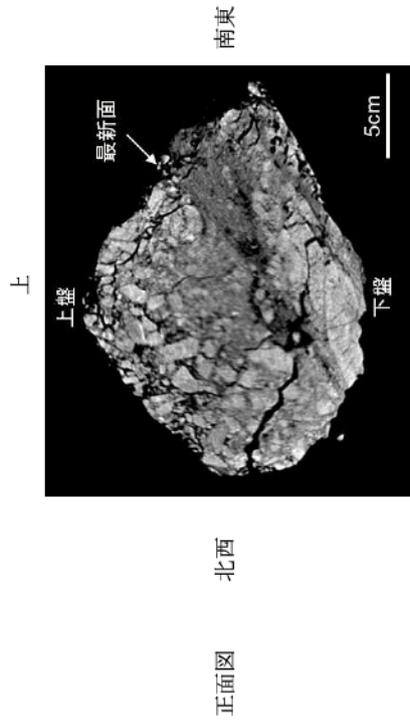
1 mm

研磨片観察結果

- ・角礫状破砕部および砂状～シルト状破砕部からなる。
- ・P面とR1面の関係から正断層セグメントを示す。

薄片観察結果

- ・カタクレーサイトからなる。
- ・P面とR1面の関係から正断層セグメントを示す。



※正面図は露頭奥側から露頭側に向けて、
水平図は上方から下方に向けて撮影。

断層の走向傾斜: TN27E/46NW (現場での計測データ)

統ずれ成分: 正断層、横ずれ成分: 不明

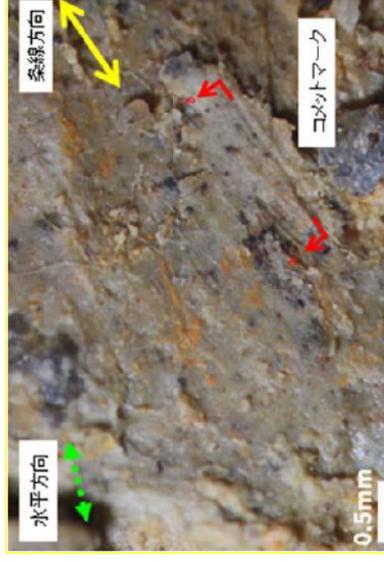
最新面はやや凹んでいる

最新面に沿う幅約 3cm以下のゾーンでやや密度が低い(粘土状破砕部)

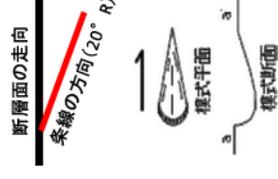
粘土状破砕部は膨縮が激しい



上盤下面

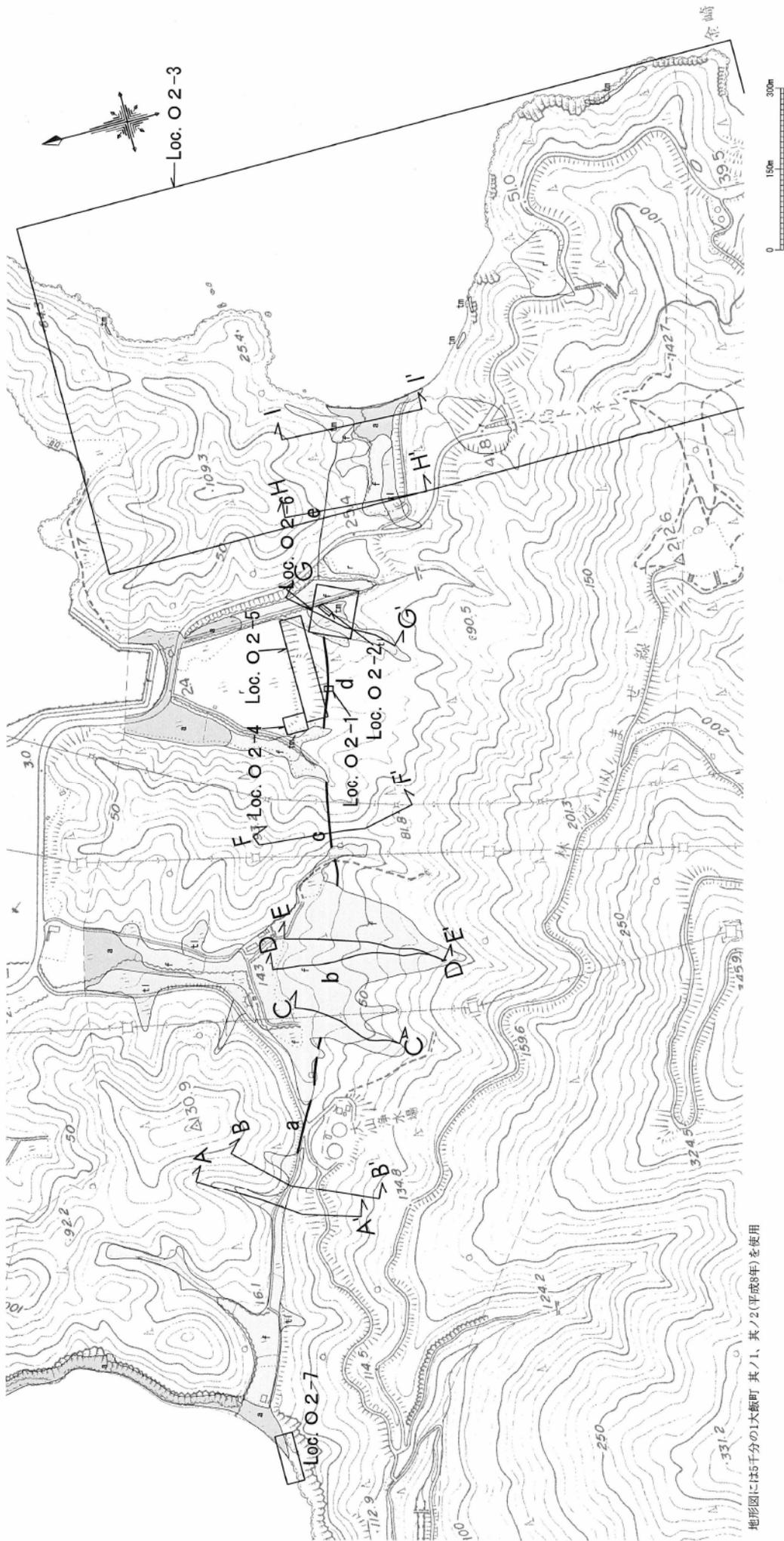


断層面の状況
左横ずれ正断層



- ・条線観察の結果、条線のレイクは $20^{\circ} R$ であり、運動センスは左横ずれ正断層である。
- ・これは現在の広域応力場から推定される運動センスとは調和しない。

第 3.3.12 図 O1 リニアメント 条線観察結果 (Loc. 01-1)



地形図には5千分の1大坂町 其ノ1、其ノ2(平成8年)を使用

凡例

- | | | | |
|--|--------------------------|--|---|
| | 中位段丘面 | | Cランクのリニアメント |
| | 低位段丘面 | | Dランクのリニアメント |
| | 扇状地群 | | 短線は低い側を示す。短線がないリニアメントは両側で高度の不連続が認められないもの。 |
| | 沖積面 | | 地形断面作成位置 |
| | 人工改変地 | | |
| | リニアメント判読要素位置 | | |
| | 詳細調査位置 (ルートマップ、スケッチ等) | | |
| | 表示範囲 | | |

第3.3.13図 O2リニアメント周辺の地形調査結果